



世界に希望を生み出そう

ガバナー月信



Rotary International District 2800 2023-2024

題字：野村百合子（山形北 RC）

国際ロータリー第 2800 地区 2023-2024 年度 | ガバナー 伊藤三之 | RI 会長 ゴードン R・マッキナリー

Happy New Year !

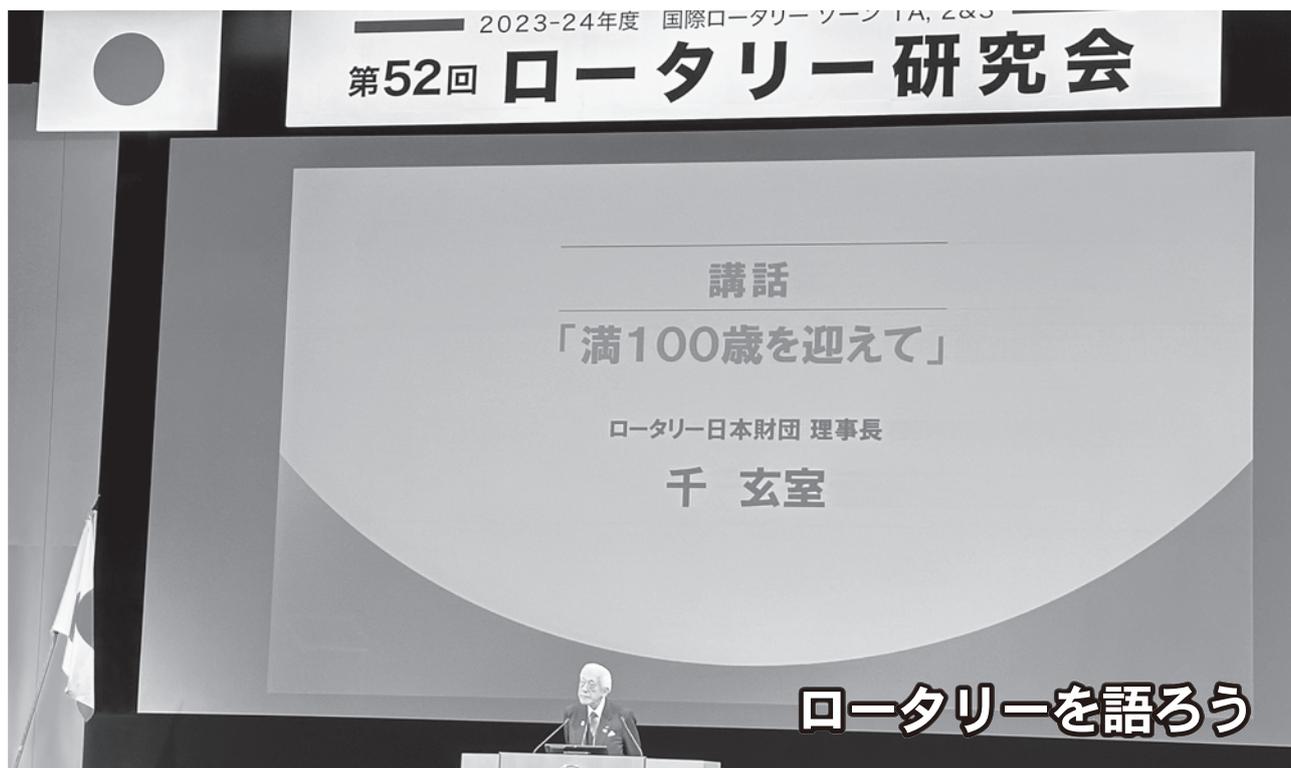
CONTENTS

- ガバナーマンスリーメッセージ
- ロータリー財団セミナー
- 第2回諮問委員会報告
- 芳賀ガバナーエレクト年度行事
- 青少年交流会報告
- 上半期の活動実績と下半期への想い
- 地区ホームページリニューアルについて
- 青少年交換学生マンスリーレポート
- ガバナー公式訪問報告
- ガバナー表敬訪問報告
- 新会員紹介
- 米山寄付表彰・ロータリー財団寄付表彰



最上川の下流
「古口舟番所」
(山形県最上郡戸沢村)





1 新年、明けましておめでとうございます！

皆さま、正月を健やかに過ごしてでしょうか。新年、明けましておめでとうございます。

私のガバナー年度も、丁度半年を過ぎ、いよいよ後半戦を迎えます。一大イベントである地区大会もおかげさまで無事終わりましたが、3月23日(土)～24日(日)のローターアクト全国研修会(山形)、5月11日(土)～12日(日)の青少年交換全国研究会(天童)というビッグイベントも控えておりますし、IMにつきましても、2月17日(土)には第5グループ、3月2日(土)には第4グループ、3月29日(金)には第1グループ、6月1日(土)には第6グループで開催されます。4月21日(日)には南陽RC60周年式典、4月27日(土)には鶴岡南RC30周年式典も挙行されます。

さらには、1月28日(日)～29日(月)には青少年交換東北多地区ウィンターキャンプ(蔵王ライザ)、3月16日(土)～18日(月)には青少年交換東北多地区スプリングキャンプ(鶴岡)、6月1日(土)～2日(日)にはいよいよ地区RYLA(寒河江)も開催されます。

その他、6月7日(金)にはインターアクト年次大会(山形)、6月15日(土)にはローターアクト年次大会(鶴岡)も開催されます。

はたまた、4月18日(金)～20日(日)には東京でガバナー会議が、5月25日(土)～29日(水)の日程で国際大会がシンガポールで開催されますし、6月8日(土)～9日(日)の日程で全国RYLA研究会が福島で開催されます。

そして、芳賀エレクト年度行事がここに加わります。芳賀エレクト自身は1月7日(日)から11日(木)ま

での日程でアメリカフロリダ州オーランドでの国際協議会に出席され、その後、2月23日(金・祝)には第2回地区チーム研修セミナー、3月9日(土)にはPETS、4月13日(土)には地区研修・協議会と。

こうやって見ますと、まだまだ、結構ハードですね・・・

2 神戸でのロータリー研究会に参加してきました！

2023年11月19日(日)～22日(水)の日程で、神戸でロータリー研究会が開催され参加してきました。ロータリー研究会は、年に1回、毎年この時期に開催されます。場所は、数年おきに神戸と東京ないしは横浜で持ち回りです。全国から、ガバナー、パストガバナー、ガバナーエレクトやガバナーノミニーが多数集っての研修会です。

ゴードン R.マッキナリー国際ロータリー会長もご臨席されて、「CREATE HOPE in the WORLD」のテーマでの基調講演をいただきました。メンタルヘルスを重視する理由について、自らの経験を踏まえての感動的なお話しをされました。

そして、公益財団法人ロータリー日本財団の千玄室理事長の「満100歳を迎えて」という演題での講話も拝聴いたしました(上の写真)。千玄室大宗匠は、言うまでもなく、千利休の末裔であり、茶道裏千家の家元として戦後の日本文化を、そして日本のロータリーを牽引してこられた方です。今年満100歳になられたのですが、30分間の講話は一度も着席せず、原稿もなしの素晴らしい内容のお話しでした。このような神様のような方が、「ロータリーの良さは、どこで誰と会っても、ロータリアンというだけで気兼ねなく挨拶し、話しができることだ。立場がある



からといって威張ってちゃいけない」と、本当に心温まる、ロータリーの魅力を実感させるお話でした。心からの脱帽です。

3 尾身茂先生のご講演もありました！

少し前まで新型コロナウイルス感染症対策の責任者として、毎日テレビに出演されていた尾身茂先生のご講演もありました。

尾身先生は、日本における感染症対策の第一人者ですが、ロータリーとの深く確かな関係があったのです。そのご講演の要旨は次のとおりです。

尾身先生がWHOのメンバーとして1990年から10年かけてポリオ根絶を目指したとき、日本の政府開発援助(ODA)の無償資金の申請をしても「ワクチンは消耗品だから援助の対象外」と指摘されるような状況の中で、日本のそして世界のロータリーが資金提供を申し出て、先鞭をつけてくれた。そのことが呼び水になって他の援助機関もポリオ根絶計画への資金の拠出をしてくれるようになった。ロータリーには感謝しきれない。

世界中からポリオをなくすという長年の目標は今、達成まであと少しのところきている。今日、野生型ポリオは確かにパキスタンとアフガニスタンを残すのみとなったが、その他の国々でもポリオのない状態を維持していく必要がある。これまでロータリーが、ポリオに対して、いかに長い歴史と大きな功績を持つとしても、根絶の時に関与したかどうかが問題だ。近年、アメリカのビル・ゲイツ財団がポリオ根絶に巨額の援助金を拠出している。ここでロータリーが手を引いてしまったら、「ポリオ根絶は俺の手柄だ」とビル・ゲイツに言われてしまいますよ！

4 ロータリーを楽しみました！

ロータリー研究会は4日間もあります。基本的に夫婦での参加です。R I会長ご夫妻歓迎晩餐会も開催され、マッキナリーR I会長ご夫妻からは私たちガバナーにすごく親しみを持って接していただきました(上の写真)。

連日、同期ガバナーや地区大会でお世話になった方々と親しく酒を酌み交わしました。

私は、一日早く出発し、夫婦で一日だけの京都観光もしました。大好きな建仁寺の「風神雷神図屏風」に勇気をいただき、祇園では、路地裏の小料理屋さんの前の花飾りに息を飲み、そして、街角の八百屋さんの看板の言葉に感激しました。

私の、今年一年の抱負はこれに決めました。

- 一、正直であること
- 一、粋であること
- 一、丁寧であること





ガバナーは語る

ロータリー財団セミナー

2023年12月3日(日)午後2時から午後4時30分まで、ホテルメトロポリタン山形4階会議場で、今年度の地区「ロータリー財団セミナー」が開催されました。

目玉は、R1第2750地区(東京南部)服部陽子バスターガバナー(東京広尾RC)のご講演です。服部PGは、私が丁度一年前の昨年1月にフロリダのオーランドでガバナーエレクトとして参加した国際協議会の際の研修リーダーであり、私にとっては直属の教官ということになります。国際協議会の会場で1000名以上の参加者を前に、日本のロータリーの魅力を堂々とスピーチされ、絶賛されておりました。

今年5月のシンガポール国際大会の推進コーディネーターでもあります。間違いなく、日本のロータリーの現在のスターのお一人です。

当地区ロータリー財団委員長である上林PGの同期ガバナーということで、上林PGからお手配願ひ、当地区のセミナーの講師としておいでいただきました。

やはり、すごかった！

とても分かりやすく、実体験に基づいた、しかも中身の濃いご講演でした。1時間くらいの時間でしたが、約100名のセミナー参加者からも最後まで熱心にご聴講いただきました。グローバル補助金を利用したケニア井戸掘りプロジェクトのねらい、効果、そしてそのプロジェクトを通して感じたという7つの重点事項の関連性、プロジェクトの真の参加者とは、寄付の意味・・・本当に勉強になりました。

また、服部PGのDEIのご理解、「ロータリー・オーケストラ論」など、財団以外のお話しの内容についても、参加者は大きくうなずいておりました。

私が何を言うよりも、次に服部PGのパワーポイント画像を掲載いたしますので、皆さん、じっくりとご覧ください。そして、地区公式LINEでは、当日の服部PGのご講演をアップしておりますので、是非、ご聴講ください。一流のご講演とは・・・本当に勉強になりますよ！

服部PGご講演

(パワーポイント画像)

2750地区

パシフィック・ベース・グループ
グアム・サイパン・パラオ・ポンペイ・チューク
10年に一度グアムで地区大会を開催



東京広尾ロータリークラブ

2000年12月7日創立

コンセプト：日本語を解さない外国人が活躍できるクラブ
海外からのビジターを受け入れられるクラブ

会員数：36名(男性18 女性18) (日本人27 外国人9)
平均年齢：56歳 (最年少26歳、最年長99歳)



国際ロータリー2800地区
「ロータリー財団セミナー」



～ロータリー財団の意義と効果的な
ファンドレイジングについて～

2023年12月3日(土)



RIラーニングファシリテーター (RI研修リーダー)
2750地区 2018-19年度ガバナー
東京広尾ロータリークラブ 服部陽子

国際ロータリー 2750地区
東京都の南半分と海外のロータリークラブ
クラブ数98 会員数約4500



はじめに



「ロータリー財団は私たちの財団」

ロータリー財団のはじまり

1917年6月 アトランタ国際大会
RI会長、アーチクラブは基金の設立を提案
⇒ ローター基金
「世界でよいことをしよう。そのためには資金が必要だ。」
Doing Good in the World.
1928年 ミネアポリス国際大会で「ロータリー財団」
THE ROTARY FOUNDATIONに名称を変え、独立した組織として管理委員会が運営を始める。




ロータリーの7つの重点分野

- 1 平和構築と紛争予防
- 2 疾病の予防と治療
- 3 水と衛生
- 4 母子の健康
- 5 基本的教育と識字率
- 6 地域社会の経済発展
- 7 環境



ロータリー財団の発展

1947年 初のプログラム 奨学生の支援
1965年 特別補助金→マッチンググラント→グローバルグラント
1983年 米国イリノイ州の非営利財団法人
1985年 ポリオプログラムの開始
1991年 シェアシステム開始
2002年 世界平和フェローシップ（現在のロータリー平和フェロー）
2007年 ビル&メリндаゲイツ財団ポリオ根絶1億ドルチャレンジ
2013年 新補助金制度の導入

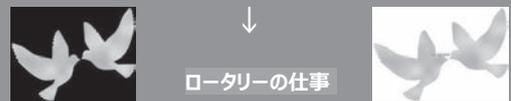


ロータリーの仕事

安全な水や、医療、教育を受けられるようにすること
傷ついた心を癒し 平穏で豊かな心にする

↓

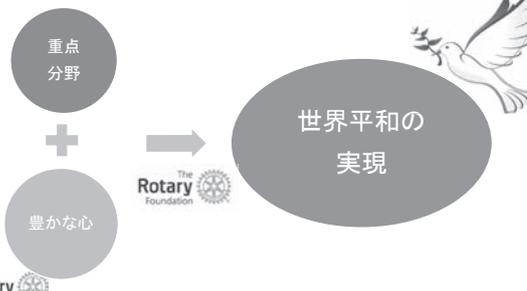
ロータリーの仕事




今、ロータリー財団が必要なわけは？



重点分野 + 豊かな心 → 世界平和の実現




ロータリーの「ビジョン声明」

私たちは、世界で、地域社会で、そして自分自身の中で
継続可能な良い変化を生むために、人びとが手を
取り合って行動する世界を目指しています。

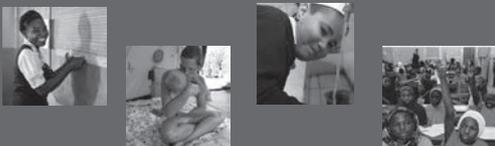
みなさん、
暗記しましょう！

ゴードン・マッキナリーRI会長




グローバル補助金

ロータリーの重点分野に該当し、持続可能かつ測定可能な効果をもたらす大規模な国際活動に使用できる補助金




ロータリーの優先事項 ポリオ根絶

END POLIO NOW

ロータリーは長年に亘り、ポリオ撲滅に取り組んできました。
根絶まであと一歩というところまで来ています。
ポリオのない世界を実現しましょう。



地区補助金

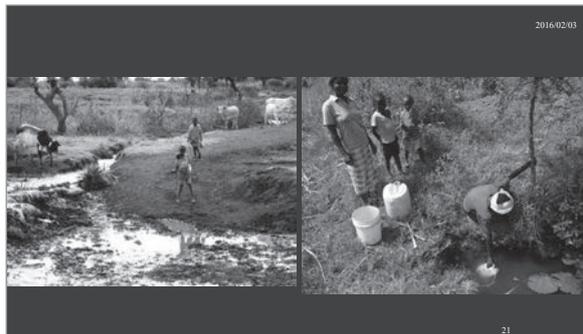
地域社会、海外でその地域のニーズを満たす短期のプロジェクト（人道的、教育的、文化的、環境保全等）に使用できる補助金




災害救援補助金



ウクライナへ救援基金
 パキスタン洪水救援基金
 トルコ・シリア地震救援基金
 モロッコ地震救援基金
 ●東日本震災復興基金 約5億円
 現地で水、食料、医療品、衣類
 などを難民や被災された方々へ
 提供するために使用



DEI : 多様性・公平さ・インクルージョン

インクルーシブな奉仕活動とは？

- 会員それぞれができることをして参加。
- ・奉仕プロジェクトの計画、実践をする会員
 - ・資金調達を行う会員
 - ・協力団体、協力クラブを探す会員
 - ・海外のパートナークラブとの連絡をとる会員
 - ・ロータリー財団との連絡窓口を担当する会員
 - ・プロジェクトに寄付をする会員



インクルーシブな奉仕活動 「全員参加のオーケストラ」

会長の振るタクトに合わせて
 ひとり、ひとりが得意な楽器を持って
 奉仕のシンフォニーを奏でましょう。



どのような支援ができるか？

井戸を掘って飲料水を確保

上総掘り → 持続可能な方法
 日本の伝統的技法、「上総掘り」
 掘削方法を現地の人々に伝授することで
 メンテナンスも、新たな井戸を掘ること
 も自分たちの手で可能にする。

「ケニア井戸掘り」 グローバル補助金プロジェクト



上総掘りによる井戸の掘削



プロジェクトのきっかけ

クラブのメンバーであった駐日ケニア大使、デニス・アオリ氏
 から現地の状況を聞く～

ケニア共和国 Republic of Kenya
 人口 約3200万人、面積 約58万km²
 タンザニア、ウガンダ、エチオピア、
 スーダンと国境をなし、キリマンジャロ、
 ウィクトリア湖を臨む
 野生動物に恵まれた美しい国。
 しかし、国の多くの地域で、飲料水
 不足の為、伝染病で命を失う人もある
 という厳しい現状。



ナイロビ東ロータリークラブ

現地視察



完成して贈呈式



現地のスタッフたち



プロジェクトのパートナーシップ

- ホストパートナー ナイロビ東ロータリークラブ
現地でのプロジェクトの進捗状況を把握し、無事に終了するまでを見届ける役割。現場に近いプロジェクト実施国のロータリークラブ。
- インターナショナルパートナー 東京広尾ロータリークラブ
海外から資金、技術提供などで支援する役割。
- 協力団体 NPO 上総掘り
上総掘りの技法で井戸を掘り、現地の人に伝授する役割。
- 協力クラブ 地区内12クラブ
- 協力団体 NPO 日本脱塩協会

現地視察にケニアへ



プロジェクト資金の調達

- ・クラブのニコニコ 50万円
- ・地区のDDF 350万円
- ・R財団 グローバル補助金 (WF) 480万円
- ・合同奉仕プロジェクトとして他クラブからの寄付 70万円
- ・資金調達のためのチャリティーイベントの開催 100万円
- ・パートナーシップを組んだ他機関からの寄付 150万円

プロジェクト総額 約1200万円

井戸掘りプロジェクト現地作業の流れ

- ・地域の選定、土壌の調査
- ・住民を対象にワークショップ
- ・上総掘りの工法で、井戸の掘削
- ・完成後 引き渡し 贈呈式
- ・住民による井戸のメンテナンス
- ・技術移転を行い現地の技術者が次の井戸を掘削



13本の井戸が完成



ケニアをテーマにしたパーティー 「ケニア・ナイト」の開催

- *ケニアの国のカラー、赤、緑を身に着ける
- *プロジェクト紹介のプレゼンテーション
- *ケニアの音楽と踊り
- *ケニアの特産品、紅茶、バラの花、アクセサリーの販売



このプロジェクトから学んだこと 1

7つの分野はつながっている！

- 1 平和構築と紛争予防
- 2 疾病の予防と治療
- 3 水と衛生
- 4 母子の健康
- 5 基本的教育と識字率
- 6 地域社会の経済発展
- 7 環境

外部機関からの支援 JDA日本脱塩協会

- ・日本脱塩協会 (JDA) は国連の非営利機関 (NGO) の一つとして海水淡水化、水処理再利用等の技術向上に注力し、水不足地域に安全な水を供給する事に寄与している組織国際脱塩協会 (IDA) の傘下
- ・三菱重工、日立製作所、ダウケミカル日本、三井物産プラントシステム、東レ、旭化成ケミカルズなど脱塩技術に関連する事業を行っている企業が会員となっている団体。



JDA総会でプロジェクト紹介のプレゼンテーション

このプロジェクトから学んだこと 2

このプロジェクトに参加したのは
だれか？

プロジェクト資金の調達

- ・クラブのニコニコ 50万円
- ・地区のDDF 350万円
- ・R財団 グローバル補助金 (WF) 480万円
- ・合同奉仕プロジェクトとして他クラブからの寄付 70万円
- ・資金調達のためのチャリティーイベントの開催 100万円
- ・パートナーシップを組んだ他機関からの寄付 150万円

プロジェクト総額 約1200万円
13本の井戸が完成

このプロジェクトから学んだこと 3

どうして補助金のルールは細かく、厳しくなっているのか？

ロータリーの奉仕活動を支える ロータリー財団

チャリティーナビゲーター

(慈善団体の格付け評価を行うアメリカの独立機関)



4つ星

チャリティーナビゲーターによる慈善団体への最高評価

財務状況、説明責任、透明性へのコミットメント



ロータリー財団への寄付



- ◎ 年次基金への寄付
- ◎ 恒久基金への寄付
- ◎ 用途指定寄付 (ポリオ、プロジェクト、など)

今も世界のどこかで私たちの寄付が使われています。






金だけではたいしたことはできない
個人の奉仕は金がなければ無力である
この二つが組み合わせれば、
文明への天の恵みとなることができる

アーチ・J・クランフ

Doing Good in the World!

ご清聴、ありがとうございました



セミナーの後半は、私と、補助金・奉仕プロジェクト委員長の小松栄一ガバナーノミニー、そして、長年地区の財団委員長をやってこられた長谷川憲治パストガバナーから、それぞれ20分程度の講話の時間としました。

私の話の概要は、次頁の「ガバナーは語る ガバナー賞の選考基準を一つ増やします！」に記しましたので、そちらをご覧ください。

小松委員長からは、「地区補助金の状況とグローバル補助金の新たな可能性」という演題で、地区補助金とグローバル補助金について、その原資、認められるプログラムと認められないプログラムなど、詳細な説明があり、さらに、当地区でもグローバル補助金を活用した奨学金利用の準備を進めていること、大阪東ロータリーアクトクラブが、ロータリーアクトクラブとしては世界で初めてグローバル補助金プロジェクト(モンゴルの子供たちの教育支援)が認められたことなどが紹介されました。

長谷川PGからは、「ロータリー財団の価値」という演題で、ガバナーエレクトのときの国際協議会でバンラデシュのガバナーエレクトから、日本のロータリアンのグローバル補助金事業でバンラデシュを救ってもらったことへの感謝の気持ちを伝えられたエピソード、世界最貧の億万長者チャック・フィニー氏の人生、毎月5000円のお金を福祉施設に送り続けた女性の物語「表彰ということ」が紹介されました。



ガバナーは語る

ガバナー賞の選考基準を一つ増やします！

今年のガバナー賞の一つに、クラブにおける「ポール・ハリス・ソサエティ・メンバー」の輩出というのがあります。「ポール・ハリス・ソサエティ・メンバー」というのは、余り知名度はないのですが、毎年ロータリー財団に1000ドル(現時点で約14~15万円)を寄付することを宣誓したロータリアンに与えられる称号とバッジです。実際に、第2800地区区内においても毎年1000ドル以上をロータリー財団に寄付しているロータリアンは少なくないのですが、「ポール・ハリス・ソサエティ・メンバー」への登録は、第2800地区ではまだまだ数人という状況です。是非、もっとこの制度の普及を図りましょう。

私の地区基本方針の一つに、「与える文化の実践」があります。これは、当然、ロータリアンのロータリー財団や米山奨学会への寄付、さらにはニコニコボックスへの寄付を想定しています。

米山梅吉が20代で学んだアメリカの大学での教訓「Gain all you can, Save all you can, and Give all you can」(大いに稼ぎ、大いに蓄え、そして大いに与えなさい)、近代経済学の父アダム・スミスの言葉「経済人として生きるのに必要なのは、聞く耳、涙する目、そして差しのべる手である」をもとに、私は、「相手のことを思いやり、理解し、世のため人のために自分に何ができるのか考えて、そして、手を差しのべることが私たちロータリアンに課せられた使命である」と確信しているのです。これまでも何度も申し上げてきたことですが、私たちロータリアンは、「与える文化」の実践者なのです。

実は、ここでの私の本音は、この論理は、ロータリー財団への寄付、米山奨学会への寄付、ニコニコボックスへの寄付を呼びかけるクラブの委員長さんへの応援歌なのです。いつも頭を下げるばかりでなく、堂々と呼びかけて欲しいのです。「ロータリアンは与える文化の実践者ではないか」と。

そして、私は、ここで、ガバナー賞の選考基準を一つ増やすことを宣言します。

昨年新しく「ポリオ・プラス・ソサエティ・メンバー」という制度ができました。これは、ロータリー財団のポリオ・プラスのための寄付を毎年100ドル(現時点で約1万4000円~1万5000円)することを宣誓したロータリアンに与えられる称号とバッジです。我が地区では、まだまだ、私を含めて数名程度しかいません。

そこで、提案です。各クラブで5名以上の「ポリオ・プラス・ソサエティ・メンバー」を輩出したこともガバナー賞の選考基準とします。

是非、皆さんの積極的なご参加をお待ちいたします。



ガバナーは語る

第2グループIM

2023年12月9日(土)午後2時30分から午後5時まで、鶴岡グランド・エルサンにて、第2グループのIM(インターシティ・ミーティング)が開催されました。

出羽三山神社の方々のほら貝、舞い、祈願祭の後、出羽三山神社参事の吉住登志喜氏の約1時間のご講演がありました。演題は、「メンタルヘルスを求めてー出羽三山の精神文化ー」。

いや~しびれるほどいい話でした。12月は、前週の服部陽子PGの財団セミナーでの素晴らしいご講演、そして今回のご講演と大当たり。11月の地区大会に一生懸命取り組んだことへの神様からのプレゼントかな~。

私が特に感動、感激したくんだり、次のとおり。

出羽三山信仰は1400年以上の歴史を持つが、人びとは、自然、そして聖なる地としての山を信仰することで心の安寧を求めてきた、出羽三山は人びとの心のよりどころであり続けた、つまり、出羽三山信仰の歴史はずっと人びとのメンタルヘルスと共にあった。

さらに、多くの人びとが山伏修行に繰り返し参加するのは、厳しい山伏修行を通して、「自然ってすごいな」と感じるとともに、「自分も棄てたもんじゃないな」ということに思い至る、つまり、自分の本当の力、自分自身を確かめることができる感覚に行き着くからだ。メンタルヘルスとは何かを、深く考えさせられました。

そして、出羽三山信仰の中興の祖と言われる江戸時代初期の天宥和尚。天宥和尚は、羽黒山の杉並木を整え、2446段の石段を整えました。それは、何十年後か何百年後の人びとが、整然とした杉並木の中の長く続く石段を歩いて登ることで、ありがたさ、すがすがしさを感じ、そして、心の安寧を得るに違いないと考えていたからだ。

ゴードン R.マッキナリーRI会長が、昨年1月のオランダの国際協議会でのスピーチで、「毎日のように通るスコットランド・エディンバラのフォース川の鉄道橋と道路橋を見るといつも思うことは、決して会うことのない人たちのためのビジョン、決して知り合うことのない人たちのためのビジョン、それによって生活が改善される人たちのためのビジョン、そのビジョンは、フォース橋のように、建設から100年以上経った後も、利用者たちからありがたがられている。ロータリーの私たちのビジョンが、奉仕を受ける人たちからありがたがられているように」と話されたことに通じるものでした。

ロータリーの「奉仕」の意味についても、深く考えさせられるお話でした。



第2回諮問委員会報告

地区幹事 小野 和行 (山形北 RC)

12月2日(土)12時30分より、白鷹町志ん月に於いて、伊藤三之ガバナー年度の第2回諮問委員会が開催されました。伊藤三之ガバナー始め、佐藤孝子直前ガバナー、8名のバスターガバナー、芳賀康雄ガバナーエレクト、小松栄一ガバナーノミニ、そして、地区関係者10名、合わせて22名の出席者で行われました。

【諮問事項】

- 諮-1 第1回諮問委員会議事録について
- 諮-2 2024-2025年度方針(案)・決議事項(案)・予算(案)・組織図(案)について
- 諮-3 決議審議会の結果・2025年規定審議会の制定案について
- 諮-4 ローターアクト・青少年交換全国大会について
- 諮-5 ガバナーノミニ・デジグネートについて(推薦切:12月31日)
- 諮-6 その他

以上の諮問事項について、諮問委員の皆様より質問や貴重なご意見等を頂き、すべての諮問事項について了承されました。

【報告事項】

- 報-1 2023-2024年度地区大会について
- 報-2 地区研修リーダーのためのセミナー(DTS)について
- 報-3 第52回ロータリー研究会について

以上、報告事項について説明がありました。

続いて、ガバナーエレクト報告事項と、各連絡事項の説明と確認がなされ、今年度第2回目の諮問委員会は閉会となりました。



ガバナーは語る

鶴岡東高インターアクトクラブ

鶴岡東高校インターアクトクラブが、今年度、公益財団法人山形放送愛の事業団と山形新聞、山形放送が主催する「愛の鳩賞」を受賞しました。

「愛の鳩賞」は、地域福祉の向上を目指して地道な努力を続ける個人や団体を顕彰するもので、1980年度から40年以上の歴史があります。活動の実績や自主性、活動が定着しているかなどを基準に選考されます。

鶴岡東高校インターアクトクラブは、鶴岡RCをスポンサーに1992年に創立され、2007年には国際ソロプチミスト鶴岡よりSクラブとして認証され、2009年には青少年赤十字にも加盟しています。

2018-2019年度ロータリー賞(RI会長特別賞:ゴールド)、2019-2020年度ロータリー賞(RI会長特別賞:プラチナ)を受賞しています。

現在は3年生5人が引退し、1、2年生の計16人が在籍し、児童館の花壇整備、薬物乱用防止キャンペーンなど幅広い活動を展開しています。部長の高宮さんは、「地域社会に貢献することに誇りを持ち、これからも活動を続けていきたい」とコメントしています。

12月12日の山新朝刊の紙面を飾り、12月18日には山新メディアタワーにて表彰式に臨みました。本当におめでとうございます。素晴らしい!



山形新聞佐藤社長(右から2人目)と記念撮影



表彰式後にガバナーの事務所でティータイム

次期ガバナー補佐研修会及び 第一回地区チーム研修セミナー

次期地区統括副幹事
事務局長 今間 邦雄 (白鷹RC)

11月2日(木)パレス松風(白鷹町)に於いて、伊藤三之ガバナーはじめ佐藤孝子次期地区ラーニングファシリテーター、次期地区サブ研修リーダーの鈴木一作パストガバナー、上林直樹パストガバナー、大久保章宏パストガバナー、及び次期ガバナー補佐の皆様にお集まりいただき、芳賀年度のスタートとなる次期ガバナー補佐研修会が開催されました。芳賀康雄ガバナーエレクトより、次期ガバナー補佐の皆様へ委嘱状が手渡され、ガバナー補佐の皆様へお願い事項について説明がありました。

また、1カ月後の12月2日(土)、パレス松風(白鷹町)に於いて第一回地区チーム研修セミナーが開催されました。伊藤三之ガバナーの点鐘で開会し、芳賀康雄ガバナーエレクトよりご挨拶とパストガバナー、ガバナー補佐、各委員長、地区副幹事、白鷹RCスタッフを含め、ご参加頂いた70名の紹介があった後、佐藤孝子次期地区ラーニングファシリテーターより地区チーム研修セミナーの意義と目的についてご講話を頂きました。引き続き、次期地区研修サブリーダーの鈴木一作パストガバナー、上林直樹パストガバナー、大久保章宏パストガバナーよりご挨拶を頂き、芳賀康雄ガバナーエレクトより最初にポール・ハリスについての話があり、次年度の基本方針が発表されました。基本方針は「ロータリーにもっと誇りを そして学び DE Iの心をもって行動実践しよう」です。そしてロータリーに誇りを持つ、ロータリーのバッジを常に着用し、ロータリーを学ぼう、ロータリーの目的を覚えよう、ロータリーは進化しなければならない、と地区基本方針について説明されました。

その後、3つのグループに分かれて次年度の活動方針についての活発な議論がなされました。最後に佐藤孝子次期地区ラーニングファシリテーターより総括を頂き、セミナーは終了しました。



芳賀ガバナーエレクトご夫妻 国際協議会出発歓送会

次期地区幹事
江口 俊雄 (白鷹RC)

12月2日(土)地区チーム研修セミナー終了後、同会場にて芳賀康雄ガバナーエレクトご夫妻の出発歓送会が、佐藤誠七白鷹町長をご来賓に迎え盛大に開催されました。伊藤三之ガバナー、地区内のパストガバナーの皆様、次期ガバナー補佐、各委員長、及び第6グループの会長エレクト、次期幹事など多数お集まりいただきました。激励の言葉を、佐藤孝子直前ガバナーより頂き、続いて数々の記念品と花束が贈呈され、芳賀康雄ガバナーエレクトより謝辞と決意の言葉が述べられました。

その後、山形在住のシンガーソングライターの庄司紗千さんの演奏があり、会場を盛り上げました。

大友恒則パストガバナーの乾杯のご発声を皮切りに祝宴に入り、ご出席の皆様方の熱気が会場を盛り上げ、最後は会場で丸い円を作り「手に手つないで」の大合唱で締めくくられました。心のこもった歓送会になり、芳賀康雄ガバナーエレクトも心新たに国際協議会へ出発ができるものと心から感謝申し上げます。



青少年交流会報告

青少年奉仕委員会 委員長 遠藤 伸一（寒河江RC）

ロータリーの青少年プログラムは4つあります。インターアクト、ローターアクト、青少年交換、RYLAです。そして、米山奨学事業もそこに含めれば5つあります。

青少年プログラムの目的は、次世代のリーダーを育てること、地域社会に貢献できる若者を育てること、そして一番大事な目的は世界平和を築くことです。

伊藤ガバナーと何度か検討し、地区大会期間中に開催される今年度の青少年交流会は、例年のような午前中の2時間を使うのではなく、地区大会2日目の式典の午前中のプログラムと午後からの関係する記念講演に参加してもらい、ロータリーを知り、感じてもらうとともに、モンゴル・フレイRCの米山学友ジャンチブ・ガルバドラッハ氏(新モンゴル学園理事長)による記念公演「ロータリーを語ろう そして 夢を叶えよう」を拝聴して、その内容を踏まえたディスカッションを青少年交流会として企画することにしました。

当日、午後2時50分から、青少年プログラム参加者90名、担当ロータリアン20名程度の100名超えのメンバーで青少年交流会を開催いたしました。矢口青少年奉仕アドバイザーPGの開会点鐘で始まり、引き続き、私の方から、ディスカッションの進め方、グループ分けの意味、趣旨説明の時間も頂きました。

以下、主に私の発言を通して、本年度青少年交流委員会のご報告をいたします。

インターアクトは現在145か国、14,911クラブ、342,953名が参加しております。ローターアクト、青少年交換も100か国以上が参加しているプログラムです。もちろん先ほどご講演頂いた、ジャンチブさんのモンゴルにもあります。世界に繋がることももちろん出来ますし、また、ロータリーからも、青少年が積極的に世界と繋がるような内容のプログラムの提供もしております。

今日は、第2800地区内でも、学生の方、大学生、留学生、社会人と様々な方がここに集まっております。まずは、目の前の身近な方と交流することから初めてみてはどうでしょうか。テーマに沿って、それぞれが感じたことを素直にグループで話してください。正解も不正解もありません。結論を出す必要もありません。いろんな人に自分の話を聞いてもらい、他の人の話も聞いてみてください。

私はいつもこの青少年交流会を、小さなRYLA(青少年指導者育成プログラム)にしなければと思っています。RYLAプログラムを知らない人も多いと思いますが、RYLAプログラムこそが、青少年奉仕プログラムの要であると感じております(そこで、趣旨説明の中で一つ、RYLA的な要素を盛り込んでみました)。

参加者全員に向け、目をつむっていただき、こんな質問をさせていただきました。「今、幸せですか。目をつむったまま、幸せだ、と思っている人手を挙げてください」。どのくらいの人が手を挙げたのでしょうか？

そのまま、30分のグループディスカッションに。テーマは「ジャンチブさんの講演を聴き感じたこと」。

その後、グループ(10グループ)各2分間の発表です。講演を終えたジャンチブさんも参加しての発表会となりました。各グループ素晴らしい内容の発表でした。その中でも、「夢は何歳からでも遅くはない」、「苦労してもあきらめない気持ちがある限り夢はかなう」、「自分は今のところ夢がないが、焦らないで目標を見つけたい」など、前向きな意見が多く出ました。



その発表をすべて聞いた上で、ジャンチブさんに講評をいただきました。ジャンチブさんは、こんなにも素晴らしい交流会とは思ってもよらなかったと話し始め、大変感動したし、皆さんの活躍を期待したいと、本大会プログラムより熱がこもった話を、時間をオーバーしてやっていただきました。

そのあと、もう一度時間をいただき、「ジャンチブさんの話をもとに討論をし、自分のことをもう一度振り返ることが出来たと思います。最初、今、幸せですか？と聞いた時、5分の1の方しか手を挙げられませんでした。それではここで、もう一度同じ質問をします。今、自分は幸せだと思う人手を挙げてください」。なんと、全員手を挙げてくれました。

「そうです。ジャンチブさんは、留学中の苦学生のときも、寝る時間が3時間しかない毎日を送っている時でも、その時々、どの時点でも、もし、今あなたは幸せですか？と質問されたら、ジャンチブさんは間違いなく手を挙げていたでしょう。だから夢を叶えられたのです」。これが、ロータリーとの関りで得られる大事なものです。

この交流会に参加した青少年の目の輝きが、始まった頃と終わった時では、ほんの2時間弱でしたが、確かに違っていました。

もっと自分が成長したい、前向きになりたいと思っているなら、今年6月1日～2日に予定しているRYLA研修に参加して下さい、と、少しスピーアールもさせて頂き、矢口PGの閉会の挨拶と点鐘で締めることができました。

終了した後も、ジャンチブさんから、感謝の言葉と、感激・感動の握手を何度も何度もいただきました。ご協力いただきました青少年の皆さん、学校関係者、関係ロータリアン、ご準備いただいた山形北ロータリーの皆さんに感謝いたします。



上半期の活動実績と 下半期への想い

Part 1 ガバナー補佐

第1グループガバナー補佐

高橋 弘哉 (酒田RC)

①公式訪問 7月28日(金)ベルナル酒田

伊藤三之ガバナーの提案を受け、初の試みとして、第1グループ5クラブ合同の公式訪問及びガバナー歓迎夜例会を行いました。ガバナーとクラブにとって公式訪問の今後の有り方を考えるいい機会となりました。ロータリークラブの重要な行事である公式訪問を年度初めの月にいち早く5クラブ合同で開催出来たことは、グループ内の親睦融和に大いに役立ったばかりでなく、各会長にも壇上でそれぞれご挨拶と一年間の決意表明をしていただいたことで、これまたグループ内で大いに盛り上がりました。

②「それぞれの最上川物語」

10月8日(日)宮野浦海岸及び最上川河川敷

「それぞれの最上川物語」事業を、最上川と日本海の出会う酒田らしい企画を考え実施しました。

無数のペットボトル、おびたしい漁具や流木の山。伊藤三之ガバナー夫妻もおいで頂き、収集作業に汗をかき、参加者全員が達成感に浸りました。この様子は、地区大会式典の中の記念事業報告映像でも大きく取り上げていただきました。

一転、場所を北岸に移し、芋煮会のメッカ河川敷で舌鼓を打ちました。各クラブに役割分担をお願いし、全員野球で行った貴重な事業となりました。

③IMについて

2024年3月29日(金)ベルナル酒田

内容の詳細はまだ未定ですが、酒田RCの姉妹クラブである鹿児島RC、小樽南RCにもお声掛けをし、講話には、酒田出身の音楽家作家としても活躍している白崎映美さんを予定しています。ロータリーらしさを大切にしながら、白崎さんのコーナーは一般公開出来ないものかと考えています。

今年度は伊藤三之ガバナーの強いリーダーシップのもと、楽しく精力的に活動させて頂いておりますし、下半期もこの調子で頑張ります。

第2グループガバナー補佐

高野 邦夫 (鶴岡東RC)

間もなく2023-2024年度の上半期が終わろうとしておりますが、現時点での第2グループとしての活動や各クラブにおける活動状況を報告いたします。

まず第2グループとしては、7月1日の内川清掃作業、そして10月15日には第2グループ懇親ゴルフコンペを行いました。

また、10月1日は伊藤ガバナーの今年度のロータリー奉仕デー「それぞれの最上川物語」事業を実施するため、130人の人員で湯野浜海岸清掃を予定しておりましたが、大雨の影響で急遽中止となりました。しかしながらその後、各クラブでの活動等もあり意義のある「それぞれの最上川物語」の一日になったと思います。

各クラブの活動実績としては、鶴岡市花いっぱい運動への参加、鶴岡まちなかキネマの復活再開への協力、荘内大祭への衣装協力、鶴岡市長杯ポッチャ大会の開催などの活発な活動の報告を受けております。

更には、「余目ロータリークラブ文庫」の設立、さらにはバスターガバナーや町会議員を招いての講話等もあり充実した例会と奉仕活動満載の上半期であったと考えます。

そして上半期の締めくくりとして12月9日にIMを開催いたしました。

本年度のIMでは「メンタルヘルスを求めて～出羽三山の精神文化～」と題し、人の道を学びました。グループ内の多くのロータリアンにIMに参加していただきました。

下半期においては、会員増強を推し進めたいと考えます。各クラブとも、現時点で何名かの新会員候補者がいると伺っています。この人たちにまず入会していただくことを優先します。各クラブとも会員が増えれば多くの奉仕活動が出来ますし、より楽しめるロータリークラブになると考えます。

是非、皆様のご協力をお願いいたします。

第3グループAガバナー補佐

丹野 健一 (東根中央RC)

代理 青柳 初夫

2023年5月下旬、第3グループA担当の丹野ガバナー補佐が体調不良で2~3か月活動ができないと告げられ、同じ東根中央RCの私が代理を務めてきました。東根中央RC武田正之会長とも相談しながらこれまでやってきました。

まずは、担当である5RCのクラブ協議会に出席し活動状況等を聞きしました。

さらに、天童RCがスポンサーである創学館高校のロータリーアクトクラブの活動状況を視察し、車椅子の修繕活動に感心させられました。

ロータリー奉仕デー「それぞれの最上川物語」では、当グループ5クラブの一致団結のすばらしさに感動するとともに、伊藤ガバナーの行動力に感心しました。

そして、伊藤ガバナーの今年の地区大会は、感動、感動でした。

ガバナー公式訪問は、東根RC、東根中央RC、天童RC、天童東RCを終え、あと1クラブ(天童西RC)となりました。

1月からは、丹野ガバナー補佐が戻ってきますので、私の活動は上半期で終了となります。皆様のご協力に心より感謝いたします。

第3グループBガバナー補佐

佐竹 義弘 (村山RC)

第2800地区の上半期の最大のイベントである地区大会も無事終了いたしました。

私が担当する第3グループBの7クラブのうち6クラブのガバナー公式訪問が終了し、1月中旬の1クラブ(村山ローズRC)を残すのみとなりました。

ガバナー補佐のクラブ協議会訪問は、全て終了いたしました。

第3グループBは、北村山・最上地区の7クラブであり、その地域は広範囲にわたり、クラブ協議会や公式訪問は移動距離も長く、私は高齢なこともあって難儀いたしました。

また、近年は各クラブの例会が月に2回～3回と少なくなり、訪問日の日程調整に苦勞いたしました。各クラブの皆さまのご協力を得て日程をうまく確保することができました。そして、訪問した際には、各クラブの皆さまに歓待していただいたことに感謝いたします。

伊藤ガバナーは、尾花沢市の出身であり、尾花沢市、大石田町の顧問弁護士をされていることもあって、首長への表敬訪問は役所におじゃまるのではなく、尾花沢RCと尾花沢中央RCのクラブ合同例会(公式訪問)後の懇親会に尾花沢市長と大石田町長が出席され、懇談させていただくという珍しい形になりました。

第3グループのインターシティ・ミーティングは東根中央クラブの担当で東根温泉で開催し、陸上自衛隊第6師団神町駐屯地司令の講演で防衛力活動の状況を知ることが出来ました。その後、第3グループ12クラブの会員の親睦会が開催されました。

下半期の第3グループの計画は、村山RCの担当で5月18日(土)、さくらんぼカントリーにて、第3グループの親睦ゴルフ大会を開催予定。12クラブの会員の親睦を図りたく計画いたしますので、大勢の参加をお待ちしております。

第4グループガバナー補佐

奥山 吉一 (寒河江RC)

昨年度5月より第4グループ各クラブを訪問させていただきました。新会長所信スピーチやクラブ協議会など、他クラブの新年度行事に参加できたことは貴重な体験でした。

また、3月のPETSの折には各クラブの会長さんに、「ガバナー補佐としてのスピーチはいたしません」と言ってしまいましたが、伊藤ガバナー提唱の「それぞれの最上川物語」参加のお願いに伺う際にはスピーチの依頼があり、10分ぐらいのスピーチをいたしました。そのスピーチの内容は、鈴木ガバナー年度の地区幹事の時に第4グループの方々には一方ならずお世話になりました。その時のお礼と、私の趣味のジャズの話と最後に「それぞれの最上川物語」参加のお願いのスピーチをさせていただきました。

そのかいもあって、「それぞれの最上川物語」事業の10月1日(日)当日は雨も上がり、第4グループからは70名の参加があり、にぎやかに伊藤ガバナーの船下りを見送ることができました。感謝感謝であります。

第二弾のスピーチ依頼があった時には、私のつたないロータリー経験の話をさせていただいております。第三弾はないことを祈っております。

第4グループのガバナー公式訪問は、9月19日(火)の大江RCを皮切りに、9月20日(水)の西川月山RC、9月21日(木)の寒河江RC、10月24日(火)の寒河江さくらんぼRC、最後に10月30日(月)の河北RCで終了いたしました。各クラブの会長・幹事はじめ会員の皆様のご協力誠にありがとうございました。寒河江市長、大江町長、西川町長、河北町長への表敬訪問も実に闊達なお話になり意義深いものとなりました。常日頃、ロータリー活動を通して行政への協力を惜しみなく実施している証と思います。感謝感謝です。

今年度、私のグループ内の会長幹事会はこれまで3回開催されました。4回目は1月19日を予定しております。議題は3月2日(土)開催のインターシティ・ミーティングへの協力要請です。IMの今年度のテーマは「我が職業を語る」といたしました。講師は加茂水族館館長の奥泉和也氏です。瀕死の加茂水族館をクラゲ展示で盛り返し、世界的に有名な水族館にのし上げた方です。生粋の庄内人ですが、ジャズのベーシストとしても知られております。クラゲとジャズの関係は今から楽しみにしております。

また、IMの際には、第4グループ各RCより入会3年未満の会員から1名、「我が職業を語る」をテーマとし、5分程度のスピーチをいただくことといたします。

下半期も各クラブのご協力を切にお願いして、私の報告といたします。

第5グループAガバナー補佐

林 政俊 (山形RC)

RI第2800地区伊藤ガバナー年度も半年過ぎました。ここで上半期の感想を記してみます。

ガバナー補佐の任務は、ガバナーの年度目標が達成されるよう担当各クラブにクラブ協議会などを通じてガバナーの想いを伝えることかと、数回のガバナー補佐研修会を通じ考えてきました。

しかし振り返れば、私自身、必ずしも思った仕事を満足にやり遂げたとは言えません。その点役に立たない補佐だったかもしれません。まずはお詫びいたします。

私の担当クラブは第5グループAで山形市内3クラブと山辺、中山の5クラブです。会員数も80～90名の山形北、山形RCから、50名程度の山形南RC、そして少人数の中山、山辺RCと様々です。

公式訪問は山辺RC、山形北RCを残していますが、全てのクラブに一度は訪問いたしました。訪問しての感想は、それぞれ特徴を持ったクラブ運営をロータリー精神の基に熱心に行っているということです。大きいクラブは大きいなりに余裕をもってクラブの伝統に沿った運営をなされ、小さいクラブは大きいクラブにはない家族的な、工夫をされたクラブ運営をなされており心地よく訪問ができました。各クラブともRI会長のテーマ、第2800地区ガバナーの基本方針を理解され、年次計画書に取り上げておりました。

さて、今年度のテーマの一つに、ロータリー奉仕デー「それぞれの最上川物語」がありましたが、第5グループで最上川に接しているのが中山RCだけということで、伊藤ガバナーの思い入れが深い事業ですので、私たちガバナー補佐2名は、5月の時点から中山RCを訪問し、会長、幹事はじめ会員の方々と会場になる河川敷を視察し意見交換し快くこの事業の主体幹事クラブを引き受けて頂きました。

その後も何度か中山RCの方々と会合を持ち、10月1日の日を迎え、成功裏に無事終わることが出来ました。中山RCの少ない会員での準備、運営は大きな負担であったかと思えます。改めて御礼申し上げる次第です。その後の公式訪問で、伊藤ガバナーは中山RCに対して、こう慰労の言葉をかけておりました。「人数11名のクラブがこの大仕事を成し遂げたことで、第2800地区内のメンバーに、中山RCここにありと示した」と。準備にたずさわった私たちもうれしく思ったところです。

これまでの活動を通して思うのは、「それぞれの最上川物語」の様に、それぞれのクラブにはそれぞれの理念とクラブ運営がある、そこにガバナー補佐は、RI会長と地区ガバナーの想いは伝達するも、事業内容の細かなところまで立ち入ることは無用であるということです。

残り6ヵ月は、担当クラブの方々と交流を密にして、多くの友人ができればと考えているところです。

第5グループBガバナー補佐

吉田 義尚 (山形東RC)

まずは、地区大会が無事終了しましたこと、おめでとうございます。

今年度は10月1日にロータリー奉仕デー「それぞれの最上川物語」事業が実施され、最上川を通して環境問題、そしてふるさとを考える機会を与えて頂き感動しました。

担当各RCの上半期の活動実績と下半期への想いについて報告します。

①山形西RCについて

7月10日のクラブ協議会&ビアパーティに参加し、7月24日にガバナー公式訪問終了しました。

12月18日のパレスグランデールでの「クリスマス家族会」に参加しました。

下半期への想いは、クラブ現況報告書(2023年7月10日1回目)の記載のとおり、新会員の指導教育を目的としたファイヤーサイドミーティングの充実を期待します。

1月15日のクラブ協議会又は4月8日のクラブ協議会に参加予定です。

②山形東RCについて

8月4日のクラブ協議会に参加しました。

今年度の事業として蔵王古道宝沢口保存整備活動を9月17日に実施し参加しました。8月25日に「会員増強」について、8月8日に「ロータリー情報について」、10月20日に「米山奨学会」についてのクラブフォーラムを開催しました。

下半期への想いは、会員増強が急務の課題と考えます。

また、IM開催の担当ですので成功を期待します。IMの企画等については、IM計画書(2023年1月4日提出済み)のとおり、次のような概要です。

- ・IMのテーマ…「DX時代を生きる」デジタルトランスフォーメーション時代を生きる、AIの現状と近未来について講演していただく予定です。
- ・基調講演…村山恵一(日本経済新聞社コメンテーター)

③上山RCについて

7月19日の例会卓話(クラブ協議会)、10月25日のクラブ協議会が終了しています。

クラブ現況報告書(7月19日提出済み)の記載のとおり、コロナウィルス感染症の心配から施設への直接訪問開催を見合わせ、消毒液等衛生用品の贈呈を継続しています。

下半期への想いは、1月の新年会、親睦活動としての4月の観桜会、職業奉仕に関して会員職場訪問の実施、青少年奉仕活動としての「ふれあいミーティング」の開催を期待します。

④山形中央RCについて

8月1日にクラブ協議会が終了しています。

会員増強については7月～10月までの4か月間で1名増員の目標を達成しました。

下半期への想いは、会員増強の強化と拡大を目指してください。

ローターアクトクラブの全国研修会が山形中央RCの例会場であるホテルメトロポリタン山形も使用して開催されます(2024年3月)ので協力をお願いします。

次年度のガバナー補佐も山形中央RCから輩出することが決定していますので、クラブ内の意識を高めて欲しいと思います。

⑤山形イブニングRCについて

9月25日にクラブ協議会が終了しています。

会員増加の目標は4名でした。目的達成に感謝申し上げます。

下半期への想いは、高橋会長の掲げるスポーツ関連のプロジェクトの推進、そして、地区補助金の有効活用と事業報告に期待します。

式訪問の一日となり有意義な時間を過ごさせていただきました。

9月7日(木)午前11時から高島RC会長幹事会・ガバナー公式訪問例会を行い、午後2時30分に高島町長に表敬訪問をいたしました。

第6グループAの会長幹事会は、どのクラブも会長・幹事のほかクラブ役員も多数出席してガバナーよりご指導いただき、有益なものになりました。

9月29日(金)には高島RC主幹の東北地区親睦野球大会前夜祭、9月30日(土)小国ロータリークラブ50周年記念式典に出席しました。いずれの行事にもガバナーに出席していただきました。

10月1日(日)、「それぞれの最上川物語」事業当日を迎えました。小雨降る中、米沢4RC・ローターアクト・インターアクト・ボーイスカウト・米沢RC友好クラブの品川RC会員など総勢80数名で最上川源流域の直江堤公園で清掃活動を行いました。

高島RCは10月15日(日)、高島町糠野目(水辺の楽校付近)において約20名で清掃活動を行いました。

第6グループAの「それぞれの最上川物語」事業の様子は、11月12日(日)の地区大会式典の記念事業映像でも大きく取り上げていただきました。

下半期は4月に南陽RC60周年、6月に第6グループIMを予定しており、再度各クラブを訪問し年度目標の達成についてお願いしたいと思います。

第6グループAガバナー補佐

吉野 徹 (米沢RC)

昨年5月新型コロナウイルス感染症5類移行に伴い各クラブとも実に4年ぶりに通常活動の戻った今年度、6月28日(水)第6グループAのガバナー補佐としての活動が始まりました。当日米沢4RC事務所に高島RCも含めた5クラブの会長・幹事さんにお集まりいただき、伊藤三之ガバナーの基本方針の再確認と公式訪問日程及び最上川物語事業の担当クラブを決定しました。

7月3日に米沢おしょうしなRC、7月4日に米沢上杉RC、7月6日に米沢RC、7月7日に米沢中央RC、7月13日に高島RCそれぞれのクラブ協議会に参加し、ガバナーの基本方針及び最上川物語事業への協力依頼と地区公式LINE並びにマイロータリーへの登録をお願いしてきました。

8月1日(火)午前中に米沢市長と山形新聞置賜総支社長を、伊藤三之ガバナー及び米沢4RC会長に同行していただき表敬訪問しました。昼食後午後1時から米沢上杉RCを皮きりに米沢4RCの会長幹事会(1クラブ1時間)を開催し、各クラブの事業説明等の後ガバナーからコメントをいただきました。同日夕方6時から米沢上杉RC進行のもと高島RC会長・幹事にもご参加いただき、公式訪問例会・ガバナー歓迎会・懇談会を開催しました。初めての4クラブ合同での公

第6グループBガバナー補佐

佐藤 靖彦 (小国RC)

2023年7月からスタートした伊藤ガバナー年度も早いもので半分が過ぎようとしている。実際は2022年の9月が一回目の次年度ガバナー補佐研修会だったので、様々な「何故か？」に囲まれた一年が過ぎていったのである。

担当している7クラブの会長幹事さんには本当に心から感謝している。どのクラブもクラブの活性化や問題点に目を向けて活動を実践している。なれない新米ガバナー補佐をいつでも暖かく迎え入れて頂いた。

6月、ジャケットの下のシャツを汗だらけにして各クラブ一回目のメークに巡回。公式訪問の合同例会の賛否で様々な質問をされた。うまく答えることのできない6月だった。

7月13日、白鷹RCの公式訪問が今年度一番初めての公式訪問。半月前に岡崎会長から公式訪問に合わせて新会員の入会式とバッジの授与式を行いたいとの連絡がある。思いやりと誇りに満ちた素晴らしいクラブだと再確認した。

9月5日、南陽市内3クラブ合同ガバナー公式訪問では、実質上のホストクラブである南陽東RC大竹会長と高橋幹事には特に汗をかいていただき、初めての

取り組みである合同の公式訪問を大過なく実施できたことに心から感謝している。

ガバナーへ「けん玉」のプレゼントをご用意いただいた長井中央RC公式訪問9月13日。その間にも各種セミナーや我が小国RC50周年事業など盛りだくさんの半年があつという間に過ぎていった。

この半年を冷静に振り返り、私自身に何か成果があったか？というと特に何も無いのではと感じてしまう。いつもの年よりメモカードの枚数が多かった。自分のクラブ以外の昼飯を多く食べた。そんな程度で半年経過した今でも「ただのロータリー会員」からあまり成長していないと反省している。

今年度地区大会も終わり本当に伊藤年度も残りあと半年となった。

担当クラブの公式訪問はあと2つ。我が小国クラブは3月。しかもガバナーの山形北クラブの前日の予定。まだまだ先は長い。担当クラブへの訪問は「苦」ではなくなった。唯一そこだけが成果というか評価できることであろうか。

そして後半の一番のメイン行事はIMである。6月1日に長井で「会員増強」をテーマにして実施する計画で進めている。次年度は久方ぶりに第6グループBからガバナーが輩出される年度でもあり、小人数クラブが点在する我がグループのグループ内全体の勢いが増すようなIM開催にしたいと考えている。

伊藤ガバナーの補佐役を買って出たが実際はほとんど「ガバナーに支えられた」半年だった。今年度のガバナー補佐の中では最年少の小生も「大寒」の頃に二人目の孫が生まれる予定。孫くらいは支えられる祖父でいたい。

ガバナー補佐としては50点の前半が過ぎ何とか年度の終わり70点くらいで次年度のガバナー補佐へ引き継ぎたいと思う。ある日、地方紙に目を向けると寒河江RCの大竹さんという方の無償映画上映の記事が載っていた。一読し、「真のロータリアンの姿」を垣間見た。こんな素晴らしい人間に成長したいと、後半の自分に期待を寄せている所である。

いずれにせよ、残り半年自分らしくロータリーを語りロータリーを楽しもうと思う。心柔らかく。



地区大会の舞台裏

Part 2 委員会委員長

クラブ奉仕委員会 委員長

藤野 和男 (大江RC)

7月23日(日)に寒河江市で開催しました「クラブ奉仕セミナー」の報告を申し上げます。

セミナーは、規定審議会代表議員でもある鈴木一作パストガバナーを講師として、第一部「クラブ奉仕の正しい理解」、第二部「標準ロータリークラブ定款の改正について」の二部構成で開催し、密度の濃いセミナーとなりました。

第一部「クラブ奉仕の正しい理解」では、クラブ会員がクラブに対して果たす義務と、クラブがクラブ会員に対して果たす責務について、次のように解説。

【クラブ会員がクラブに対して果たす義務】とは具体的には、会員は必ず例会に出席し会員同士が積極的に交流(懇談・意見交換・情報交換・討論)することによって学びと成長があり、ロータリーの親睦とともにクラブ会員の誰もが素晴らしい真のロータリアンになってこそクラブの発展があるということ。

【クラブがクラブ会員に対して果たす責務】は、魅力的で価値あるクラブ運営に集約され、クラブは親睦・プログラム・会報・出席・ロータリー情報など委員会の一体感の演出に努めること。具体的にはクラブリーダーである会長としての矜持、実効性のある理事会の開催、例会においては心洗われる会長挨拶によってロータリーの矜持・素晴らしさを伝える責務があると理解してクラブ管理運営(クラブ奉仕)に当たることが求められること。

第二部「標準ロータリークラブ定款の改正について」の詳細は、ガバナー月信 Vol.1.3(9月号 P3~4)「クラブ奉仕セミナー」に掲載されておりますが、標準ロータリークラブ定款を改正するためには、地区大会で「制定案」を決議し、12月31日までにRIに議案を提出する必要がある、現に、先の地区大会において〈第9号議案〉【標準ロータリークラブ定款「第6条の1」の制定案を規定審議会へ提出する件】として決議されています(地区大会プログラムP20~21)。

伊藤三之ガバナーらしい演出で地区大会も盛況で終了し、早いもので後半戦へと移りました。2023-2024年度下半期の委員会活動は「クラブ奉仕ガイドブック」を第2800地区情報委員会の窓口にアップするとともに、ガバナー補佐と連携しながら卓話招聘に応えたいと思いますので、地区委員会の活用をお願いします。

会員増強委員会 委員長

赤塚 弘実 (天童東RC)

私はクラブの活性化は会員増強にありと思っております。ロータリーを語り楽しむ仲間を増やすことがクラブの活性化につながり、組織としての活力も増していくと思っております。

今年度、上半期12月までに20クラブを卓話訪問し、昨年度と合わせて38クラブを訪問させていただきました。私自身が会員増強の実践を学んで経験させていただいたことを、下半期も各クラブに訪問してお話しさせていただければと思っております。特に会員数の少ないクラブほど増強への想いが強く感じられます。

また、新会員の拡大と退会防止に向けて、マイロータリーの情報や地区内成功事例なども踏まえて、新会員向けクラブ内セミナーや退会防止セミナーの開催マニュアル、具体的なアイデアなどを盛り込んだ冊子「会員増強物語」を製作し発行する予定です。代表的な原稿をガバナー月信にも掲載させていただきます。

さらに、クラブ活性化のための「会員増強セミナー」の開催も予定しております。クラブの増強に繋がっていただければ幸いです。

今年度「各クラブ1名以上、地区内50名以上の純増」の目標を掲げて、7月から10月までの4か月間を「会員増強強化期間」として会員増強を推進して、11月の地区大会で新会員の歓迎セレモニーを開催しました。何と、地区大会までの期間中に60名の入会の報告がありました。是非、下半期はさらに40名の拡大を推進し、年度内に100名増強を達成したいと考えておりますので、各クラブの皆様のご協力をお願いいたします。

公共イメージ委員会関係ですが、今日の情報化社会においては、会員増強の為に、事業のパートナーを募るうえでも、さらには寄付を募るうえでもロータリーの公共イメージの向上は重要な事項です。ロータリー情報委員会と連携しながら、地区ホームページや地区公式LINE等の有効なツールを活用して、ロータリーのイメージアップに繋げ組織基盤の確立を図りたいと思っております。

RI第2840地区PG田中久夫氏(高崎RC)の著書「ロータリークラブに入ろう!」の本との出会いが、私の会員増強推進物語の始まりでした。当地区では、田中PGから昨年だけで3回(会員増強セミナー、地区研修・協議会、地区大会)のご講演をいただきましたが、田中PGは、「会員増強の目的は、決してクラブの会員数を増やしたいだけの安易な目的ではなく、一番重要な目的は、ロータリーに入ることがどれだけ本人のためになるのかをその本人自身が理解してくれることであり、それこそがクラブへの奉仕、地域社会へ

の奉仕、その人への奉仕だ」とおっしゃっています。私は、「人生は出会いと感動」と思っております。この熱き想いを例会の卓話の中でお伝えできればと思っております。下半期も、地区内会員の皆様のご理解とご協力をお願いいたします。

職業奉仕委員会 委員長

吉澤 彰浩 (米沢中央RC)

地区職業奉仕委員会は、年間活動計画に基づき、また地区研修・協議会での委員会でのフォーラム・ディスカッションでの討議結果を踏まえ活動を行いました。

上半期は、主に各クラブにお招き頂いたゲスト例会卓話において、職業奉仕概念の変遷の歴史や意味、また標準クラブ定款第6条五大奉仕部門の2の定義の確認と「職業奉仕の森」について地区メンバーに伝播する(「構想は大きく」シンググローバル)とともに、当委員会での拘りでもあります「実践は身近なところから(アクトローカル)」に従い、クラブでの活動事例やメンバー各々の職業奉仕の実践事例を紹介するとともに、クラブやメンバーに対し学びを踏まえての実践行動を促して参りました。その結果、あるクラブにおいては、年間活動計画の中で毎月例会の中に必ず月1回は「職業奉仕」にテーマを絞ったメンバーによる会員卓話を行って頂いた、との報告を受けました。

その結果、聴く側においては、品位ある業務についての尊重、多様性の理解、そして職業を通しての社会奉仕の尊さ等々を知り、また、話す側においては、事業・専門職務の道徳的水準の向上や職業人の在り方の再確認に繋がった、等の声を聞きました。「人生の道場」と言われるクラブ例会での職業奉仕の取り組みは、標準クラブ定款第6条2の「クラブが開発したプロジェクト」でありますし、また、クラブのservice(奉仕)であると理解しております。

ここでケーススタディとしてメンバーの事業所での実践事例を紹介致します。あるメンバーの事業所では、「一度には森は育たないだろう」と、であればコンプライアンス(高潔性)とメンタルヘルスの観点から、そこに的を絞り、昨今の労働環境の変化から労務管理の徹底した見直しによる従業員のさらなる心理的安全性の向上に取組まれました。結果として労働生産性が上がり業績が良くなった、との報告を受けました。これは、ロータリーの5つの中核的価値の一つ「integrity(高潔性)」でもあると考えます。また、話しは少し飛びますが、職業奉仕に近い思想を持つ近年の著名な経営者、故稲森和夫氏の名言、仕事を成功させる秘訣「お天道様に対し恥ずかしくない行動を」にも通ずるものですし、さらに古典ではありますが、算盤だけではなく職業倫理道徳を説いた名著、渋沢栄一の「論語と算盤」を思い出しました。これはロータリーに置き換え

ると、ガイ・ガンデッガーの言葉、「見よ、あの素晴らしいロータリアンを！」に通ずるものがあると思います。ロータリーで培った職業奉仕の実践は確実に事業所発展に繋がります。

下半期には、再度、職業奉仕概念の深い学びと、また、何故、世の為や人の為に行動したことが、結果的には自分を救うことになるのか、思想を表す標語1(超我の奉仕)行動を表す標語2(最も良く奉仕する者、最も多く報いられる)、決議23-34の意義や理解、再確認をするためにセミナーを実施いたします。

ロータリーの118年の歴史は常に新しいメンバーが入会し新陳代謝を繰り返し、現在も尚、世界をより良くするために、ロータリーの奉仕の理念は止まらずに続いております。継続は力なり。昨今のR Iでは「研修」という言葉が、受け手側主体の言葉である「ラーニング」に変わりました。これは主体者が誰かという意味で、非常に画期的であります。同じことを何度も何度も繰り返して、参加する者の学びと実践、そしてまた学ぶことを忘れてはなりません。R I第2840地区田中久夫P G(高崎RC)のご講演内にもよく出てくる安岡正篤氏は三識と言いました。「知識・見識・胆識」です。自身の中で消化し行動してこそその知識です。後半戦に向けて、入会年度の浅いメンバーや、また職業奉仕について関心の薄いメンバーに向けて、学びの場を作り、成長の糧にして頂き、またさらなる奉仕の理念の実践に繋がればと考えます。

青少年奉仕委員会 委員長

遠藤 伸一 (寒河江RC)

今年度は、昨年3月のPETSそして4月の地区研修・協議会の時点から、伊藤ガバナーからはロータリーの活動意義や、目的を明確に示していただいたおかげで、どの青少年プログラムにも、委員長以下、各クラブのロータリアンがより多く参加していただき、興味や、理解が得られることを念頭に置き、活動することが出来ています。

特に今年度は、今年3月にローターアクトの全国研修会、5月には青少年交換全国研究会も控えていることから、年度末の6月末まで全力疾走です。

青少年奉仕委員会関係で特に下半期力を入れていかなければならないのが、ローターアクトクラブの会員減少に歯止めをかけるとともに、具体的には、休眠中の山形RACを再稼働させることです。問題は、ローターアクト側ではなく、自社の若手社員をローターアクトクラブに入れることにより、社員がリーダーシップを学び、成長し、結果的に社業の発展にもつながるということの認識が、ロータリアン側にほとんどないことだと思えます。

実は数年前まで、ローターアクト自身もこの活動に半信半疑でした。

それを変えたのが、RYLAでした。その時の中心メンバーが現在地区で活躍しているローターアクターです。自分たちがロータリーと接して、どれだけ成長しているのか。本当に活動の意義があるのか。それを確かに確信できたのがRYLAでの研修でした。

今年度、ローターアクトと青少年交換の2つの全国大会の陰になり、目立たない企画となっておりますが、RYLA研修こそが、全ての青少年プログラムの始まりであり、要となるプログラムなのです。

今年度は、コロナ明け3年ぶり、6月1日、2日の一泊二日で開催します。

是非、自社の若手社員を派遣してみてください。ある見学に来ていたロータリアンが言ってくれました。「ロータリーもこんな良いことをしているんだね。全然知らなかった。もっと多くの人に知ってもらえるように宣伝するから」と。

青少年関係各委員会、後半も全力で各クラブのサポートに頑張ります。御理解、ご協力宜しくお願い致します。

ガバナーも地区大会が終わり一息ついてる場合ではないですよ(笑)!

インターアクト委員会 委員長

枝松 祐子 (上山RC)

1 上半期活動実績

- ①インターアクトクラブ活動視察
 - ・創学館高等学校インターアクトクラブ
「車いすのメンテナンス事業」(ガバナー月信11月号)
 - ・南陽高等学校インターアクトクラブ
「ペットボトル キャップ回収・レモネードスタンド活動」(同12月号)
 - ・羽黒高校インターアクトクラブ(12/20)
 - ・鶴岡中央高等学校インターアクトクラブ(1/26 予定)
- ②「それぞれの最上川物語」への参加
 - ・新庄東高等学校インターアクトクラブ(新庄RC主催)10/13(金)11:30~インターアクトクラブを中心とした生徒約140名参加
舟形町最上川支流小国川河川敷清掃
- ③「地区大会」への参加(ガバナー月信12月号)
 - ・11/12(日)インターアクト、委員会が壇上にて「インターアクトの歌」を斉唱。オープニングを飾る。
 - ・インターアクトクラブ紹介のビデオを会場スクリーンでご覧いただき、インターアクトも地区大会の式典及びジャンチブ氏の記念講演に同席し参加。

- ・「青少年交流会」
ジャンチブ・ガルバドラッハ氏の記念講演を聴講して思ったことをグループに分かれて話し合いました。

2 上半期を終えて思うこと

白鷹RC主催「それぞれの最上川物語」における若い世代への参加の促し方ですが、10月14日(土)9:30から、西置賜管内の高校4校を事前に訪問し、参加者を募り、11名(長井高校4名、長井工業高校4名、専修学校3名)の参加者があった。10:00から清掃活動の開始、清掃終了後同RC岡崎会長より「最上川の名称と黒滝開削の歴史」講話、同RC江口会員より「ロータリーを知ろう」講話がなされた。

インターアクトクラブの無い西置賜エリアでの白鷹RCのとりわけ積極的な活動は目を見張るものがあります。今後インターアクトクラブ創設を考える時、学校に働きかけるほかに地域の中で若い世代を中心に「ロータリーとは何か・ボランティアの重要性・仲間と一緒に何かを達成していくことの楽しさや学び」を話し合いながら育てていくことが重要かと思えます。そのためには私達も「大人の人間力」を若い世代にしっかり見せなければならない責務を感じております。

生徒達から逆に学ぶことも多くあります。「入りて学び、出でて奉仕せよ」の精神を今後とも引き継いでいかなければと決意を新たにす思いです。他人事ではなく主体的に、深い学びを生徒達と共有していきたいと思えます。

ロータリーアクト委員会 委員長

和田 義弘 (河北RC)

昨年7月に伊藤年度がスタートしましたが、スタート時点で地区内7つのロータリーアクトクラブの内6クラブが会員4名以下の危機的状況でありました。活動休止状態のクラブもあり、まずはいかにクラブ活動を活性化するか、会員を増やすかが早急に求められるスタートでした。

7月22日に、地区内ロータリーアクトクラブの第1回会長幹事会が行われ、ロータリアンについても、各グループのロータリーアクト委員の方々に、ロータリーアクトと一緒にロータリーの例会にメイクしていただき、ロータリーアクト活動への参加と会員の紹介をして欲しいとお願いしました。

各ロータリーアクトクラブの活動現状を報告したのち、来年3月に開催される全国ロータリーアクト研修会の準備状況報告も三浦友介実行委員長よりいただきました。約30名のロータリーアクトでの全国大会の開催はとてもハードルが高く、まして山形市での開催に

あたり山形RCが活動休止状態である以上、特に第5グループのロータリアンによるロータリーアクト活動へのご協力が不可欠と感じた会長幹事会でした。

8月20日には鶴岡RCと西村山RCが主催となり、鶴岡市由良で夏季交流会が行われ、快晴の青空の下、釣りやバーベキューで親睦を深める楽しい交流会となりました。

9月10日[アク(9)ト(10)]は、全国統一の“アクトの日”で、最も近い日曜日に全国のロータリーアクトが奉仕活動を行い、市民へのアピールとロータリーアクトの意識向上を図る趣旨の行事を開催することが奨励されており、米沢RCが主催となり米沢駅前通りにおいて、皆で親睦を深めながらゴミを拾い清掃活動を行いました。

11月5日は南陽東RC・酒田RC・東北文教大RCが主催となるスポーツ交流会が河北町のゴルフ場で行われ、秋田と福島の高橋ロータリーアクトも一緒にゴルフ体験をしました。30名上の参加者でほとんどがゴルフ未経験でしたが、福島の高橋ロータリーアクトが元レッスンプロということもあり、4名のロータリアンが付き添い、まず1時間練習場で握り方や打ち方を習い、実際にボールを打ちました。そのあとはグループに分かれ、実際にコースを回りました。自然の芝から球を打って皆楽しく交流できました。

12月9日はロータリーアクト第2回会長幹事会が鶴岡市の華夕美で行われ、情報交換会を含め様々な活動報告と全国研修会の意見交換が行われました。

下半期はまず3月23日～24日に開催される全国ロータリーアクト研修会が一大行事となります。他にも様々な活動が例年同様行われますが、課題である会員拡大、そしてロータリーアクトクラブの自立をいかに確立するかを、ロータリアンと一緒に、深く、そして楽しく協議していかなければなりません。その機会を作り、皆で行動していくことをロータリーアクト委員会は担っていきます。

RYLA委員会 委員長

渡部 晃 (余目RC)

RYLA委員会上半期の活動ですが、自分自身RYLAを経験していないことから、過去に開催された地区内外RYLA研修事業についての調査からスタートしました。前年度5月に参加させて頂いた全国RYLA研究会 in 札幌では大きな気づきを得ました。と言うより、正直な感想は驚きの連続と言ったところでしょうか。RYLAが青少年奉仕のメイン事業ですと言い切るところもあり、2泊3日は当たり前、離島体験や客船を貸し切り海上でRYLA研修を行っている地区やクラブもあり、規模感の違いに委縮してしまいました。

上半期のRYLA委員会は、Eメール、LINE、SNSを通じて情報交換を続けました。まず一番重要なRYLAの開催場所についてです。県内数か所の候補地を選定し、アクセス面、費用面、利便性から総合的に判断をしました。県内施設の大半はコロナ禍後にはかなりルールが厳格化されています。次年度の予約不可であったり、飲食や宿泊は利用人数によっては対応不可であったりと施設利用のルールが大きい壁でしたが、遠藤委員長のアドバイスで、寒河江市内の旧小学校施設(旧田代小学校跡地 学びの里TASSO 寒河江市田代370-1)に、何とか2024年6月1日～2日の予約を取ることができました。まずはひと安心です。

下半期の活動については、RYLA研修開催に向け、実際に行動に移さなければなりません。私自身RYLAを体験したことのない委員長ですので、イメージすることが大変な訳ですが、自分が参加者になった場合に置き換え、「2日間で何をしたいか！何をしたら次回も参加したくなるのか！」を考えて企画を進めて参ります。過去の資料も参考に具体的な実施要項作成を進め、地区内49クラブにご理解とご協力をお願いしながら広報を行います。

また、3月のローターアクト研修会山形会議と5月の日本青少年交換研究会山形会議との連携も模索し、実りあるRYLA研修にしていきます。

RYLA研修の目標参加人数は50名、そして、RC会員20名以上(RC会員は見学のみ参加も大歓迎です)。

青少年交換委員会 委員長

佐藤 聡 (鶴岡南RC)

青少年交換委員会では上半期において、下記の活動を行いました。

- ①全国危機管理委員長・青少年交換委員長合同会議への参加

7月2日(日)、東京・京橋において開催された「全国危機管理委員長・青少年交換委員長合同会議」に佐藤孝子直前ガバナーと出席し、2024年5月に行われる「国際ロータリー日本青少年交換研究会山形会議」への参加を呼び掛けるプレゼンを行いました。

- ②第1回青少年交換委員会

7月22日(土)、寒河江チェリーパークホテルにて開催。次年度派遣候補学生募集要項とポスターの確認、インバウンド学生を受け入れるホストクラブのオリエンテーション、2022年8月に派遣され、2023年7月に帰国した4名の帰国学生、堀米晏瑠さん(スポンサークラブ 酒田スワンRC 台湾)、

後藤志菜さん(酒田中央RC スイス)、工藤颯さん(鶴岡南RC メキシコ)、渡部和香さん(余目RC 台湾)が帰国報告をしました。

- ③第2回青少年交換委員会・オリエンテーション

9月9日(土)、寒河江チェリーパークホテルにて開催。インバウンド学生3名を初めて迎えて、自己紹介並びに日本での生活に関するオリエンテーションを実施しました。また今年夏派遣される候補学生の選考面接を行い、2名の学生が選ばれました。

- ④第3回青少年交換委員会・オリエンテーション

10月15日(日)、羽黒山手向宿坊多聞館で開催。初めて参加する派遣候補学生2名の紹介、帰国学生3名による帰国報告を行ったのち、インバウンド学生、派遣候補学生、スポンサークラブに分かれてオリエンテーションを行いました。精進料理の昼食後は、羽黒山の出羽三山神社に全員で参拝しました。

今後も、1月には東北多地区合同ウィンターキャンプ、3月には東北多地区合同スプリングキャンプ、そして5月11日～12日には日本青少年交換研究会山形会議とイベントが続いていきます。山形会議においては、全国32地区の来日学生代表による日本語スピーチコンテストを行います。多くのロータリアンのご参加をお願いいたします。

米山奨学・米山学友委員会 委員長

芦野 茂 (山形西RC)

- ①7月8日(土) 月信9月号

米山奨学・学友セミナーが開催されました。第5代米山親善大使ウェンブウェベ・スマナサーラ氏(スリランカ出身)が講演し、自身と米山奨学会との深い関係についてのお話でございました。地区とクラブから合計102名の参加者がありました。

- ②8月4日(金)～6日(日) 月信9月号

米山学友による世界大会「再会 in 関東」が茨城県つくば市で開催されました。伊藤ガバナー始め、大久保奨学会理事、奨学生2名と共に第2800地区出身の他県で就職している学友会メンバーと交流し大会に参加して参りました。

- ③10月14日(土) 月信12月号

米山カウンセラー説明会及び芋煮会が山寺で開催されました。カウンセラーの半年間の経験を振り返り、役割の再確認や経験談のディスカッションが行われました。その後、山寺の公園で奨学生との交流会が行われ、芋煮会も開催されました。

- ④11月11日(土)

毎年の米山奨学委員会の恒例行事である米山ナイト、地区大会前夜祭が開催され、翌日の地区大会への心構えを確認し学友会との交流が行われました。

⑤ 11月12日(日) 月信12月号

地区大会では米山奨学生代表チョウ・メイさんと学友会代表オウ・ブンブンさんが活動報告を行い、その後モンゴル米山学友のジャンチブ氏より講演がございました。その講演をテーマに青少年委員会と米山奨学委員会でグループディスカッションが行われ、最後にジャンチブ氏より講評をいただき、有意義な青少年交流会になりました。

⑥ 12月10日(日)

来年4月からの新しい米山奨学生の選考試験が行われました。選考の結果、新たに7名の奨学生が決定しました。次年度も、今年度同様、世話クラブの他に、全員の奨学生についてサブ世話クラブ制度を取り入れ、奨学生のバックアップを充実させるとともに、地区内に広く米山奨学制度の広報を行っていきたくと考えております。

⑦ 今後の予定

- ・1月13日: ニューイヤーパーティー
- ・2月3日: 米山奨学歓送会
- ・4月6日: 米山奨学オリエンテーション・カウンセラー説明会
- ・5月18日: 米山学友会総会

まだまだこれからも予定が盛りだくさんです。下半期も全速力で駆け抜けます。

社会奉仕委員会 委員長

大久保 章宏 (山形南RC)

社会奉仕委員会は、ロータリー財団委員会と共に活動を行い、今年度は、伊藤三之ガバナーの地区全体での奉仕活動「それぞれの最上川物語」を推進しました。全クラブの社会奉仕活動として、環境をテーマとしての活動をお願いし実施して頂きました。その結果、地区全体での活動日を10月1日と設定、多くのグループ毎にガバナー補佐の協力により全クラブに参加要請を行い無事に開催されました。グループによっては当日の開催では無く別日での開催になった地域も有りましたが、地区全体での活動は大きな盛り上がりにつながり、地区の一体感が出たと考えています。その時の映像は、地区大会で放映、報告されました。素晴らしい結果と思います。

ロータリーの7つの重点項目は、「平和の推進」、「疾病との闘い」、「水と衛生」、「母子の健康」、「教育の支援」、「地域経済の発展」、「環境保護」です。特に環境問題を考え、各地の全ての水が最上川に注がれ、最後は日本海へ流れ出ます。自分たちの地域で、流れ出してしまったゴミが、最終的には日本海へ流れつき海洋ゴミ汚染問題へとつながることを改めて認識し、未来の子供たちへ綺麗な環境を残すことも私共の大きな役割と考えます。

社会奉仕活動、国際奉仕活動は単年度で完結するわけではありません。下半期は、次年度につながるような活動を推進し各クラブと共に考え支援して行く予定です。特に次年度の地区補助金申請時期でもあります。

今年度の「それぞれの最上川物語」のように、ロータリークラブが一体となり、会員が結束し、そして達成の喜びを共有できるような活動を皆様方と共に考えて行きましょう。活動してこそロータリーです。そして共に汗をかきましょう。全ては未来の子供たちのために。各クラブの特徴ある活動に期待しております。

地域奉仕委員会 委員長

菅原 成規 (鶴岡RC)

伊藤ガバナー年度、上半期が終わりました。

伊藤ガバナーは、ガバナー月信第1号でロータリー奉仕デー「それぞれの最上川物語」の事業の達成への想いを熱く述べられていました。当初から、地域奉仕委員会として、各グループのガバナー補佐の皆さまを事業達成のためフォローするようとのことでしたが、私自身としては、地区全体の動きもつかめずガバナーの期待に応える状況ではなく、ガバナー補佐の皆さま方との連携があまり取れなかったことを反省しています。しかし、地域奉仕委員会の力は足りませんでした。地区全体にガバナーの熱い思いが伝わり、新聞報道にも大きく掲載され、地区事業としては大成功だったと思います。

地区補助金を活用した地域社会奉仕活動については、報道機関への発信も積極的になされているようです。

下半期に向けて、地域奉仕委員会として、「メンタルヘルスへの取り組み」をどの様に進めていくか悩んでいましたが、地区大会での長谷川パストガバナーの講演「山形いのちの電話とメンタルヘルス」のご講話を聞いて、目から鱗が落ちる状態でした。地区内の会員の皆さま方にもぜひ、まず勉強していただきたいと思えます。長谷川パストガバナーが各クラブの例会で卓話するのも大変なので、地区公式LINEに講演内容をアップするなど、どのように広めていくかを地域奉仕委員会で相談しながら進めていきたいと思えます。

昨年10月21日に宮崎市で開催されたロータリー奉仕デー「海岸美化プロジェクト」にご縁があり参加させていただきました。地元の第2730地区池の上ガバナーの他、当地区の伊藤ガバナー、そして鶴岡RCの友好クラブである東京東江戸川RC鳴村直前ガバナーがパネラーとして参加されました。他地区の環境問題への取り組みなど、改めて学ぶことが多いセミナーでしたが、これからどのような名称になっても「それぞれの最上川物語」、これからも継続して行くことが大事だと感じました。

国際奉仕・ロータリー学友委員会 委員長

安孫子 俊彦 (山形東RC)

国際奉仕・ロータリー学友委員会では、年度当初に以下の三つの事業計画を立てました。

- ①各クラブにおいて、国際奉仕の目標を設定し、それに向けて具体的行動を起こせるよう国際奉仕活動への理解を促進すること。
- ②グローバル補助金への理解促進を促し、グローバル補助金を使って国際奉仕活動を行うクラブを支援すること。
- ③第2800地区として、地域奉仕委員会、補助金・奉仕プロジェクト委員会と連携しながら、「グローバル補助金」を活用した国際奉仕活動を行うこと。

国際奉仕活動への理解を促すために、各クラブから国際奉仕に関する卓話のご要請があれば、積極的に応じるよう努めておりますが、上半期に訪問させていただいたクラブは一つに止まりました。下半期も引き続き卓話のご要請には応えていく所存ですので、宜しくお願いたします。なお、12月3日に開催されたロータリー財団セミナーの講師の服部陽子PG(東京広尾RC)RIラーニングファシリテーターの講演内容が地区公式LINEで配信されております。国際奉仕、特にグローバル補助金の意義等について実例を交えてわかりやすく解説されておりますので、ロータリー財団セミナーに参加されなかった方は是非ご聴講下さい。

また、第2800地区からの情報発信の一環として、地区公式ホームページ、地区公式LINEなどで各クラブの実例を紹介していきたいと思っておりますので、各クラブにおかれましては本年度に実施した国際奉仕活動があれば情報をお寄せ下さい。

まだグローバル補助金に関する問合せはありませんが、グローバル補助金は、支援金額が大きく、そして質の高い活動が可能となります。各クラブにおいては、たとえば周年事業などで、グローバル補助金を活用した国際奉仕活動をご検討いただければ幸いです。

ロータリー財団委員会 委員長

上林 直樹 (酒田中央RC)

上半期、8箇所のクラブにおじゃまし、ロータリー財団に関する卓話をさせていただきました。下半期につきましても、要請があれば喜んでおじゃまいたしますので、地区事務局にご連絡ください。

11月19日に神戸にて開催されましたロータリー財団セミナーに参加してきましたが、やはり、ポリオ

撲滅がロータリー財団の最大のターゲットであることを実感いたしました。1988年～2022年までの間に世界中で約30億人の子供達に予防接種を行い、約2000万人以上の子供達がポリオにかからず済んだというのが現実です。そして「ポリオのない世界」を目指すには、今後も1年間で3億7千万人の子供達にワクチンを接種することが必要とされ、そのためには、数十万人のポリオ保健従事者による予防接種と監視活動が必要となり、莫大な費用が必要となるのです。

ところが、「ロータリーの友」のバリー・ラシン財団管理委員長の記事によりますと、現実には、世界中のロータリー会員の80パーセント以上がポリオ撲滅のための寄付をしていないばかりか、世界中のロータリアンの60パーセント以上の方は、ロータリー財団に全く寄付をしていないというのです。

世界中の120万人のロータリアン一人一人が年間\$25(3500円)寄付するだけで、大口寄付者からの寄付を募る必要もないのです。

さて、財団委員会としての上半期最大のイベントは、12月3日に開催されました服部陽子PG(東京広尾RC)をお迎えしてのロータリー財団セミナーでした。ケニアでのグローバル補助金を利用した井戸掘りプロジェクトを経験されてのご講演で、参加した皆さんが感動されておりました。

当地区の長谷川PG、伊藤G、小松GNにもご講話いただきました。ありがとうございました。

下半期は、このセミナーの感動をベースに、ポールハリス・ソサエティ・メンバー、そして、ポリオプラス・ソサエティ・メンバーの増加に専念したいと思います。皆さま、「与える文化」の実現にご協力願います。

補助金・奉仕プロジェクト委員会 委員長

小松 栄一 (寒河江RC)

11月19日、神戸で開催された「ロータリー財団地域セミナー」に参加してきました。

12月3日には、「地区ロータリー財団セミナー」を開催しました。

東京広尾RCの服部陽子PGをお迎えし、「ロータリー財団の意義と効果的なファンドレイジングについて」と題した基調講演を拝聴いたしました。ロータリー財団は「私たちの財団」として、その成り立ちや発展の歴史をお話し頂き、何故ロータリー財団が必要なのか、ポリオ根絶への挑戦「END POLIO NOW」、7つの重点分野の説明を頂きました。そこで大切なのは、ただ現状を改善するだけでなく、心の安寧、豊かな心の醸成までがロータリーの仕事であるとのこと。続いて、地区補助金やグローバル補助金、災害救助補助金などの解説に続いて、自らが経験した例として「ケニア井戸掘りグローバル補助金プロジェクト」について

説明をして頂きました。ケニア大使との繋がりから事業が始まり、ロータリー財団の手続きや基準をクリアする大変さ、多くのパートナーとの共同作業やケニアでの実際の活動とその結果について詳しくお話し頂きました。最後にこの事業を行うことで、ロータリー財団の7つの重点分野が互いにつながり合っていること、この事業に参加したのは、自分達だけではなく、財団に寄付をしてくれた世界中の人達であると話され、参加者全員が財団の新たな側面を意識した瞬間となりました。

年度後半もロータリー財団への寄付増進に向けて頑張らしましょう。

資金推進・管理委員会 委員長

池田 徳博 (鶴岡西RC)

伊藤年度も6カ月が経過いたしました。皆様の財団へのご理解とご協力に感謝いたします。

今年度は年間一人当たり\$150のロータリー財団への寄付をお願いしているところではありますが、皆様のご負担を考慮し、内、年次基金寄付として、\$50、ポリオプラス\$20という内訳とさせていただいております。一応の納入期限は11月末になっており、集計中ではありますが、残り\$80については特別寄付としてご協力いただいております。

財団については、これまで2回の卓話を行ってきております。また、12月3日には東京広尾RCの服部陽子PGを講師に迎えての大変有意義な財団セミナーが開催されました。

グローバル補助金の活用による財団奨学生の派遣、ポリオプラスへの継続的支援、平和フェローへの人材研修に、残りの時間を務めて参りたいと思っております。

なお、地区補助金についても、DDF(地区財団活動資金)の積極的な活用をお願いしたいと思います。

各種QRコードよりログインください。



My Rotary



地区
ホームページ



地区公式
Facebook



地区公式
LINE



コーディネーター
NEWS



ハイライトよねやま
vol. 285

2023年12月7日

秋田豪雨災害支援金の 御礼と報告

2023-2024年度ガバナー 各位

RI第2540地区
ガバナー 淡路 徹

支援金は、最も被害が大きく生活再建支援法の指定となった秋田市へ10月18日に2,300万円(右下の写真)、同じく五城目町に1,100万円を贈呈いたしました。

さらに、11月17日からは災害救助法指定の12市町村へ順次、各100万円を贈呈しているところであります。11月末日現在の支援金総額は、50,454,258円にのびりました。改めて心より御礼申し上げます。

残高は、秋田県社会福祉協議会が創設予定の「災害活動支援基金(仮称)」に贈呈する予定です。



鶴岡南ロータリークラブ 30周年記念式典のお知らせ

- 期 日
令和6年4月27日(土)
登録開始 午後1時~ 開会 午後2時~
基調講演 車椅子ユーチューバー 渋谷真子氏
- 場 所
東京第一ホテル鶴岡 2階 鶴の間
〒997-0031 鶴岡市錦町2-10
電話 0235-24-7611
- 登録料 15,000円

ご不明な点ありましたら 30周年実行委員長 斎藤秀紀
もしくは鶴岡南RC事務局まで
TEL0235-28-3375 メール tsuruoka-s08@rid2800.jp

第2800地区のホームページリニューアルについて

ロータリー情報委員会 委員長 伊勢 博（東根RC）

今日の情報化社会において、ロータリーに関する情報やロータリアンの活動を地域社会に紹介するのに必要不可欠なのが、ホームページやLINE、FacebookなどのSNS（ソーシャルネットワークサービス）です。

国際ロータリー第2800地区は、ホームページを活用した情報発信を行ってきましたが、スマートフォン対応になっていないために見づらさやセキュリティ対策が不十分な状況でした。そのため、今年度、ホームページのリニューアルを進めておりますので、概要をご紹介します。

また、ガバナーの意向を受け、地区公式LINEではリアルタイムで詳細な情報の提供に努めております。

情報委員会としては、上半期はホームページリニューアルの準備と積極的に地区公式LINEの運用をしてきました。下半期は、ホームページリニューアルの完成と、さらなる公式LINEの積極的な運用を目指します。



新しいホームページ（パソコン画面）



新しいホームページ（スマートフォン画面）

新しいホームページでは、ロータリーの公共イメージを向上させるために、画像を大きく掲載し、地域社会へのアピールを強化し、ロータリーに対する関心を喚起します。スマートフォンでの閲覧も考慮し、読みやすい文字の大きさとコンテンツを提供し、ロータリーを理解するための動画や資料、予定表なども充実させます。

<第2800地区の公式LINEに登録しましょう！>



LINEの画面

LINEのアプリをスマートフォンにインストールし、スマートフォンのカメラをQRコードにかざすことで、簡単に第2800地区の公式LINEに登録できます。LINEの利用メリットとして、ガバナーからの重要な情報やガバナー月信（デジタルブック）を入手でき、画面下のメニューからは第2800地区のホームページやMyRotaryに直接アクセスできます。

【期待される効果】

使いやすく情報が充実したホームページは、メンバーの参加意欲を高め、新たな訪問者を引き寄せることが期待されます。現代的で魅力的なホームページは、クラブのプロフェッショナリズムと先進性をアピールし、ロータリーの価値をより効果的に伝えることができます。

新しいホームページによるイメージアップは、コミュニケーションと効果的な活動展開につながり、会員増強にも寄与するものと確信しております。

青少年交換学生マンスリーレポート



2023.11.26 報告

國井 梓さん
(日大山形高等学校)

派遣地区：D5020

派遣国：アメリカ合衆国・カナダ

スポンサーRC：寒河江RC



留学が始まって3ヶ月が経とうとしています。リスニング力は伸びたものも、スピーキングはまだ自分の思うような伸びではありません。しかし、周りからは上達したという声が多く聞こえ、私の留学目的を果たせる段階に近づいてきているのかもしれません。

11月の初めにはロータリープログラムで交換留学生の希望者のみのカルフォニア旅行がありました。5泊6日でHollywood, Universal Studios, Disneyland, Knotts Berry Farmなどの観光地に行き、最終日にはHuntington Beachでサーフィンをしました。サーフィンは初めてだったので上手くできるか不安でしたが、初心者にしては上出来だったと思います！ Universal StudiosやDisneylandは日本で訪れたことがありましたが、アトラクションのクオリティが日本より高く感じました。待ち時間も日本より短く感じましたが、1~2時間の待ち時間を英語を話して過ごすのは私にとって、とてもハードでした。しかしそのおかげで、前回のロータリーキャンプで交流が少なかった生徒と関りが深くなり、英語の勉強にもとてもなりました。この旅が始まる前は、皆よりも英語力が劣っているから会話に混ざれなくて退屈で寂しい旅行になるだろうかと心配していましたが、新しい地に踏み入ること、新しく人を知ることとはとても楽しく、自分を成長させてくれると改めて実感しました。ロータリーの交換留学生が集まれる機会はあと2回あるのでもっと交流を深められたらと思います。

11月20日から24日はthanksgiving dayというアメリカの祝日で学校が一週間休みでした。家族や親戚が集まりみんなで食事をします。七面鳥、マッシュポテト、パンプキンケーキが定番の食事です。私は友達とホストファミリーとで3回thanksgivingがあったので、同じ料理を3回頂きました(笑)。この1週間の前後から年末明けまでアメリカはお祭りムードで包まれ、バーゲンなども始まるそうです。

11月はイベントが沢山あり、忙しい日々が続きましたが、多くの人と関りが増えました。12月は私の誕生日やクリスマスなどを控えているので、とてもわくわくしています！



2023.11.27 報告

菅原 倭夏さん
(羽黒高等学校)

派遣地区：D3490

派遣国：台湾

スポンサーRC：鶴岡RC



皆さんこんにちは。台湾は17℃~19℃と暑い日はなくなり肌寒い日が多くなりました。お店にもカイロなど防寒商品が並ぶようになり、台湾も冬を迎えようとしています。

11月7日にはクラスみんなで校外学習に行ってきました。午前中は桃園にある桃園空港へ、午後はお酒を造る工場へ見学しに行きました。そこで日本と少し違うと感じたことは、日本では校外学習の際には必ずメモ用紙や筆記用具を持って行ってその会場のスタッフの説明を聞きながらメモを取りますが、クラスメイトを見てい

るとみんな手ぶらでただ写真を撮るだけでした。そして、お昼ご飯は日本みたいに自分で用意するのではなく、学校側で手配してくれました。中国語はほんの少ししか聞き取れなくて理解するのが大変でしたが、また新しい場所を知ることができ、勉強になりました。

9日には、他クラスの生徒たちと私たち留学生4人とで隣にある新北市の福隆という場所にある山で登山をしてきました。宜蘭ではいくつかの学校の学生たちが薬物乱用防止教室の一環として、毎年登山をするそうです。その登山には高校生だけではなく、中学生、小学生も参加していました。みんなで100段以上もある石段を登ったのですが、その時に思ったことは、小さな頃から羽黒山の2446段の石段登りを経験しているので、それに比べたら簡単!と思えたことでした。そして他クラスの話したことのない子とも交流できて、さらに彼らは日本がとても好きなので沢山日本の音楽や流行り、そして簡単な日本語を共有することができました。彼らは私が日本語を教えるととても楽しそうに話をしていた登山の疲れを忘れるくらい楽しい時間を過ごせました。

普段は友達とよくショッピングをしています。買い物をしていて気づいたのが、その商品を買ったらもう一つ無料でついてくる商品が多くあるのと、お会計の時あまりセルフレジを見かけないということです。また衣料店にいくとサイズがちょうどいいか、試着をしたかを店員さんが聞いてくれます。そして私がタイの子とショッピングに行ったら化粧品のお店に行った際に、店員さんが私たちを外国人だと気づくと値引きをしてくれたことがあって、台湾の人の優しさを感じました。

私の今の中国語の現状としては、台湾に来た3ヶ月前よりだいぶ聞き取れるようになって家族同士が話している内容や、家族以外の方が会話している内容を80%くらい理解できるようになりました。そして私自身のリアクションや相槌が自然と中国語になり、家族とも雑話ができるようになりました。これからももっと沢山の会話ができるよう中国語を学んでコミュニケーションを取っていきたくです。

2023.11.29 報告

深瀬 裕正さん
(東桜学館高等学校)

派遣地区：D 4 1 4 0

派遣国：メキシコ

スポンサーRC：東根RC



こんにちは、深瀬裕正です。メキシコに来て5ヶ月も経っていることにとっても驚いています。

日本では、そろそろ雪が降り始めた頃でしょうか。メキシコでは、雪は降りませんが太陽が出ていない時は、本当に寒く10度近くまで気温が下がります。

今現在クリスマスの時期で、僕の家には巨大なクリスマスツリーがあり、家中がクリスマス仕様になってとても綺麗です。11月は、僕が住んでいるレオンでバルーンフェスティバルがありました。この祭りは、本当にたくさんの団体がバルーンを作り飛ばす祭りですが、メキシコ国内だけでなく、世界中の団体が集まるとも大きな祭りです。とてもたくさんの人が居て、とても楽しかったです。

また、12月には、メキシコの首都であるメキシコシティに行けるのでとても楽しみです。

僕の学校は、もうすでに冬休みに入っています。11月20日に学校が終わって、2ヶ月間冬休みがあります。学校のファイナルテストがやっと終わりました。少し不安ですが、気長に待とうと思います。

最近、ホストマザーがスペイン語の教室に行かせてくれているので、毎日スペイン語の勉強をしています。学校からの宿題などは特にないのでとても楽です。それに、家の近くにジムがあるので毎日通っています。いつも同じ時間帯に来るおじいちゃんと話しながらマシーンで走ったりしています。とても面白いです。ほとんど毎日サッカーの試合を見に行ったり、家で友達と見たりとみんなサッカーが大好きです。

僕のホストブラザーは、大学で料理の勉強をしています。先週、日本の料理を作ると言われたので大学に行ってきました。とてもおいしかったです。ここメキシコでは、日本食が本当に盛んです。日本人として、日本食を愛してくれていて誇らしい気持ちになりました。

今のホストファミリーとは、あと2ヶ月ほどしか一緒にいられないので、少し寂しい気持ちです。

もう5ヶ月経ったと思うと、1年はあっという間だなと思いました。

1日1日楽しみながら過ごしたいと思いました。



〈 ガバナー公式訪問 〉

長井ロータリークラブ

会長/土屋 茂樹 幹事/河井 智寛 例会場/タスパークホテル

2023年11月28日(火)



11月28日(火)、伊藤三之ガバナー、佐藤靖彦第6グループガバナー補佐、小野和行地区幹事、浅黄敬之地区統括副幹事をお迎えしガバナー公式訪問が行われました。

まず先に会長・幹事会を開催し、地区からは伊藤ガバナーと佐藤ガバナー補佐にご臨席頂き、当クラブからは会長・幹事の他、齋藤会長エレクトと小笠原副会長の4名で出席し、クラブの現況や問題点について土屋会長から話をいたしました。また当クラブの年次計画書をもとに、定款の意義やロータリーの本質や目的、年次計画・長期計画と年次数値目標についてもご指摘頂き、有意義な会長・幹事会となりました。

当クラブの事業として、9月に行われた不登校の子供たちをフォローしているNPO法人あゆむへの電子黒板の贈呈や、1月開催予定の西置賜地区内の中学・高校生で行われる第49回長井RC杯英語弁論大会の説明をさせて頂きました。

そして次年度は芳賀年度ということで、当クラブは白鷹RCの親クラブであることもあり、協力・支援体制を万全にしていけることを改めて確認したところです。

公式訪問例会では、伊藤ガバナーより講話を頂き、地区基本方針や重点事項などガバナーの想いを会員すべてに伝わる熱量で楽しく真面目に語って頂きました。

会長・幹事会から公式訪問例会、市長表敬訪問と、悪天候の中、長井にお越し頂きありがとうございました。またご同行頂きました小野地区幹事、浅黄地区統括副幹事お疲れ様でした。

〈 ガバナー公式訪問 〉

上山ロータリークラブ

会長/土田 秀穎 幹事/高橋 要市 例会場/仙溪園 月岡ホテル

2023年11月29日(水)



11月29日(水)、伊藤三之ガバナー、吉田義尚第5グループガバナー補佐、富塚充地区統括副幹事、舟越正之地区副幹事をお迎えし、ガバナー公式訪問例会が開催されました。

例会に先立ち、午前10時からの上市市長への表敬訪問は、伊藤ガバナーはじめ地区スタッフの他、当クラブから土田秀穎会長、晋道純一会長エレクト、佐藤守也次期幹事が出席し、主にまちづくりとロータリーについて語られました。

その後、場所を当クラブの例会場となる月岡ホテルに移し、午前11時から会長・幹事会が開かれました。クラブ会員有志にて設立された茂吉のふるさと上山創生の会へのクラブとしての支援事業について、伊藤ガバナーより、青少年奉仕の観点からの事業化や、地区補助金の活用等の貴重なご提案をいただきました。また、会員増強については、当クラブの名誉会員となった前上市市長の人脈を活かす取り組みなど有意義な話合いになりました。

第3113回例会は、12時30分より開会点鐘。ロータリーソングは、急遽、伊藤ガバナーの指揮のもと斉唱しました。会員13名で86.6パーセントの出席のなか土田会長より歓迎のあいさつがなされ、今年度のクラブテーマとなる「悠楽ロータリー」の意味として悠然とかまえ楽しむことの大切さが示されるとともに、改めて伊藤ガバナーはじめ地区のスタッフの皆様へ歓迎の意が表されました。

13時より伊藤ガバナーの卓話をいただきました。ゴードン・マッキナリーR I会長が掲げる国際ロータリーの年度テーマ「世界に希望を生み出そう」の解説や地区の基本方針、重点事項についてお話いただきました。ロータリーの基本哲学や、「それぞれの最上川物語」でいう清掃事業は、流域以外の地域にとっても大切な環境保全の活動となることなどが語られました。その後、吉田ガバナー補佐に講評をいただき13時30分に閉会点鐘。

結びに、当クラブに訪問していただいた67人目のガバナーは、とても温かく大きな指導者でありました。伊藤ガバナーはじめ地区から来訪された皆様へ心より感謝申し上げます。

1 長井市長 表敬訪問 ガバナー補佐 佐藤 靖彦

1月28日(火)、長井RCガバナー公式訪問に引き続き長井RC、長井中央RC合同で長井市長表敬訪問の為、同日午後2時に長井市役所を訪問いたしました。

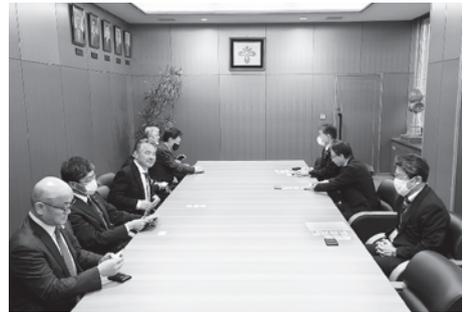
あいにく内谷長井市長は海外(タンザニア)への出張中の為、齋藤副市長、三瓶総務課長、新野総務参事の3名にご対応頂きました。地区からは伊藤ガバナー、小野地区幹事、浅黄地区統括副幹事、長井RC土屋会長、河合幹事、長井中央RC橋本幹事、小生の7名で伺いました。

今年9月にオープンした市役所に隣接する長井市遊びと学びの交流館「くるんと」の竣工の際に、長井中央RCでは今年度の地区補助金活用事業で図書を寄贈したことが話題になりました。

内谷市長が長井市内の子育て世代の声に耳を傾け、次の世代を担う子供たちが季節を問わず「安全に安心して遊べる場所」を建設したところ、現在、約3割が市内の方々の利用でそれ以外の7割が長井市以外からの利用とのことで、休日は新潟県、福島県などからも訪れての利用で、町の活性化にも意味があるとお話しを伺うことが出来ました。

現在の長井市役所はフラワー長井線の長井駅と庁舎がつながっており、中にはドトールコーヒーのショップも併設。市役所のラウンジには長井RCから寄贈されたピアノが展示されているなど、長井という地域とともにある長井RC、長井中央RC両クラブだと感じた次第です。

伊藤三之ガバナー年度の第6グループのIMは、ホストクラブが長井中央RCで、6月1日(土)に開催予定ですので、私も今後何回か長井市を訪れる機会があるかと思いますが、「水と緑と花のまち」長井市が、長井RC、長井中央RCと調和しながら益々発展していくことを願っているところです。



2 上山市長 表敬訪問 ガバナー補佐 吉田 義尚

1月29日(水)午前10時から、伊藤三之ガバナーを始めとする地区スタッフ4名と上山RC役員3名で上山市役所にお伺いし、山本幸靖市長と対談しました。

まずは、伊藤ガバナーより、今年度の国際ロータリー及び地区内ロータリーの活動の概要についての説明がありました。山本市長は上山RC特別会員でロータリー活動に対する理解も深く、大変話しの盛り上がった40分程の表敬訪問となりました。

上山RC土田会長より、齋藤茂吉の短歌を切り口に町の文化発信を高めていきたい、そのためにも上山市と上山RCが協働し地域発展に尽くしていきたい、できれば短歌を切り口にした文化推進事業を市内の小学校や中学校に広めて子供らの健全育成に尽くしたい旨の発言があり、この提案には山本市長もご興味を示され、具体的な推進方法についてご検討されることをお約束いただきました。



新会員紹介

酒田中央 R C



安野 司
(やすの つかさ)

職 業/ 前田製管㈱
役 職/ 取締役 経理・財務部長
職業分類/ コンクリート製品
生年月日/ 1962年9月2日
入 会 日/ 2023年11月17日

山形西 R C



関口 史人
(せきぐち ふみと)

職 業/ 清水建設㈱
東北支店山形営業所
役 職/ 所長
職業分類/ 建設業
生年月日/ 1967年5月4日
入 会 日/ 2023年11月6日



ガバナーは語る

地区大会の舞台裏

地区大会2日目、やまぎん県民ホールでの本会議を終えて、ホテルの懇親会場に向かって歩き出したところ、県民ホールの長い通路の向こう側から、山形北 R C のたすきを掛けたメンバーが、空になったペットボトルで一杯になった大きなゴミ袋を両手に持って歩いてきた。

ご高齢の石井先輩だった。「石井さん、俺が捨ててきますよ！」ととっさに言った。石井さんからは、「これは俺の仕事だ。ガバナーはガバナーの仕事をしろ」との言葉が笑顔とともに返ってきた。

私は、近くのトイレに駆け込み、10秒間、号泣した。私は、ガバナーとしてカッコいいことやきれいなことを言う、でも、あれこそが本当のロータリー活動だと思った。

私は、少し恥ずかしかったので、手洗い場でじゃばじゃばと顔を洗い、鏡で笑顔を確認して、何事もなかったかのように懇親会場に向かった。

ロータリー財団寄付表彰



PHF+7
山形北 R C
水上 進



PHF+7
山形北 R C
奥山 忠道



PHF+3
鶴岡西 R C
井上 彬



PHF+3
天童西 R C
東海林 松男



PHF+2
酒田中央 R C
島中 昭治



PHF+2
鶴岡西 R C
阿部 豊



米山奨学事業とロータリー財団の意義を再認識しましょう！
「ロータリアンは与える文化の実践者です！」



PHF+2
鶴岡西 R C
村田 久志



PHF+2
寒河江 R C
佐竹 衛



PHF+1
酒田東 R C
斉藤 透



PHF+1
酒田東 R C
佐々木 秀治

米山寄付表彰

第4回 米山功労者マルチプル



山形北 R C
奥山 忠道

第2回 米山功労者マルチプル



河北 R C
宇佐美 克巳

第2回 米山功労者マルチプル



山形西 R C
武田 良和

第2回 米山功労者マルチプル



山形西 R C
酒巻 雅樹



PHF+1
寒河江 R C
佐藤 巧



PHF+1
南陽東 R C
桑原 利博



PHF
酒田東 R C
渡部 芳久



PHF
余目 R C
庄司 武晴

第1回 米山功労者



河北 R C
佐藤 秀男

第1回 米山功労者



山形北 R C
野村 百合子



PHF
鶴岡西 R C
辻 博智



PHF
寒河江 R C
小野 承信



PHF
上山 R C
枝松 祐子



PHF
南陽東 R C
佐藤 文男



1月の地区スケジュール

Schedule of January 2024



世界に希望を生み出そう

■ 職業奉仕月間

1	月	(元日)	
2	火		
3	水		
4	木		
5	金		
6	土		
7	日	国際協議会 (米国フロリダ州オーランド)	↑ ↓
8	月	(成人の日)	
9	火		
10	水		
11	木		
12	金		
13	土	青少年交換委員会・オリエンテーション⑤	米山 New Year Party
14	日		
15	月		
16	火	新庄市長表敬訪問	新庄東高校 IAC 活動視察
17	水		
18	木		
19	金		
20	土		
21	日		
22	月		
23	火		
24	水	G公式訪問 (村山ローズ)	
25	木		
26	金	鶴岡中央高校 IAC 活動視察	
27	土		
28	日	青少年交換多地区合同ウインターキャンプ	↑ ↓
29	月	G公式訪問 (天童西)	
30	火		
31	水		